

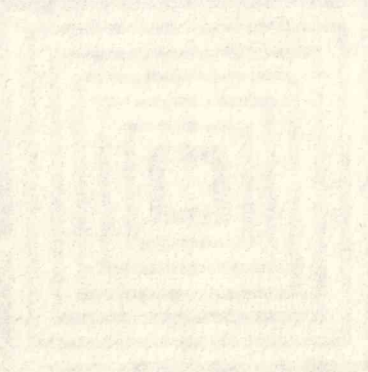
1998年度  
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画



高平8001  
画信義羅



本大別院山部

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税務会計		通 期	4 単位	中 田 信 正
<b>[講義概要・学習目標]</b> 税務会計は、会計のうち、税法に関連する分野を扱うものである。主な内容は、法人税を中心として、法人の課税所得金額を計算する仕組みや方法を学ぶことにある。講義においては、まず、納税主体である法人の意味や種類について述べ、所得計算の基本的な考え方を財務会計と関連させて説明する。ついで、益金および損金の各項目に関する税務上の処理にふれ、また、税額の計算方法について学ぶ。さらに、申告、更正・決定、不服申立てについても論じたい。理解を深めるため、できるかぎり計算練習を行いたい。 (学習目標) ① 法人税法における課税所得金額と税額の算定方法の概要を、体系的に理解する。 ② 税法上の所得金額と財務会計上の利益および両者の相違を把握する。	<b>[講義計画]</b> ① 法人税の納税主体 ② 各事業年度の所得金額の計算体系 ③ 売上に関する税務 ④ 棚卸資産評価と売上原価 ⑤ 固定資産と減価償却 ⑥ 特別償却 ⑦ 繰延資産の償却 ⑧ 役員報酬・賞与等 ⑨ 寄付金・交際費 ⑩ 租税公課 ⑪ 貸倒損失 ⑫ 受取配当金 ⑬ 引当金 ⑭ 圧縮記帳 ⑮ 欠損金の繰越・繰戻 ⑯ 税額の計算 ⑰ 申告・納付・更正・決定等 ⑱ 学年末試験のための答案練習			
<b>[成績評価の方法]</b> 学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。	<b>[参考文献]</b> 井上久彌(著)『法人税の計算と理論』(税務研究会出版局) 国税庁法人税課長(監修)『私たちの法人税』(大蔵財務協会) 大蔵省主税局税制課(監修)『法人税法規集』(中央経済社) 大蔵省主税局税制課(監修)『法人税取扱通達集』(中央経済社)			
<b>[教科書]</b> 中田信正(著)『税務会計専論(七訂版)』 (同文館)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
監査論		通 期	4 単位	バ ク テ ヨ ン 朴 大 栄
<b>[講義概要・学習目標]</b> バブル経済の崩壊とともに、証券会社による損失補填の問題、銀行の不正融資など企業経営者による不正行為が社会的関心事となっている。同時に、連続する大手企業に倒産、それにとともなう企業公表情報への不信が経済社会に混乱を引き起こしている。 このような状況のもと、監査に対する社会的関心も高まってきた。監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等に応用論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもとに監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。 本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。	<b>[講義計画]</b> 講義の順序を示す。 第1章 監査とは 第2章 通説監査論の考え方 第3章 情報監査論の考え方 第4章 その他の監査論 第5章 監査の必要性 第6章 監査の限界と補強方法 第7章 監査の歴史的発展 第8章 監査目的と不正 第9章 監査基準の意義 第10章 監査人の資格と条件 第11章 監査人の正当注意 第12章 監査証拠 第13章 監査計画 第14章 内部統制と試査 第15章 監査報告書と適正性 第16章 監査意見 第17章 特記事項			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。	<b>[参考文献]</b> 鳥羽至英著 『監査基準の基礎 第2版』 白桃書房 高田正淳著 『最新監査論』 中央経済社 その他、講義中に適宜指示する。			
<b>[教科書]</b> 高田正淳編著 『会計監査の基礎知識 第2版』 中央経済社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税法 (旧会計学特講一税法)		通 期	4単位	中 田 信 正
<p>[講義概要・学習目標] (講義概要) 税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得課税および資産課税を講義内容とする。まず、日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げた。利子所得、配当所得、給付所得等の課税所得を所得類別に説明し、個人事業者に対する事業所得の計算方法および資産課税に課せられる譲渡所得についても論じた。ついで、相続財産に対して課せられる相続税を取り上げ、その計算構造および課税評価基準を解説し、関連して贈与税にもふれることにより、その理解を深めるため、計算練習を重視する。 (学習目標) 所得税および相続税の基本的仕組みを、体系的に理解する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>I 日本の税制</p> <p>II 所得税法</p> <p>1 納税義務者</p> <p>2 所得の種類</p> <p>3 課税所得の種類</p> <p>4 利子所得</p> <p>5 配当所得</p> <p>6 不動産所得</p> <p>7 給付所得</p> <p>8 退職所得</p> <p>9 譲渡所得</p> <p>10 山林所得</p> <p>11 一時所得</p> <p>12 雑所得</p> <p>13 事業所得</p> <p>14 所得の総合課税と分離課税</p> <p>15 所得控除</p> <p>16 税額の計算</p> <p>17 源泉徴収・年末調整</p> <p>III 相続税法</p> <p>1 課税財産・非課税財産</p> <p>2 相続税の計算構造</p> <p>3 課税評価基準</p> <p>4 贈与税の計算構造</p>		
<p>[成績評価の方法] 学年試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出题する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>国税庁広報課長監修 『やさしい課税所得』 大蔵財務協会</p> <p>国税庁資産課税課長監修 『やさしい相続税』 大蔵財務協会</p> <p>国税庁広報課長監修 『やさしい贈与税』 大蔵財務協会</p>		
<p>[教科書] 国税庁所得課長監修 『平成9年度 私たちの所得税』 大蔵財務協会 後半に使用した相続税については別途指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
会計学特講 (英文簿記・財務諸表)		通 期	4単位	柴 理 梨 亜
<p>[講義概要・学習目標] 国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。 本講義では国際会計基準、アメリカ式財務諸表や会計原則、連結財務書表や監査等について学び、多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目標である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期)</p> <p>1. 英文財務諸表の意義及び用語の学習</p> <p>2. アメリカ式財務諸表</p> <p>3. アメリカの会計原則</p> <p>4. アメリカの監査実務</p> <p>(後期)</p> <p>5. 連結貸借対照表</p> <p>6. 連結損益及び剰余金結合計算書</p> <p>7. 連結キャッシュ・フロー計算書</p> <p>8. 連結財務諸表の注記</p> <p>9. 監査報告書</p>		
<p>[成績評価の方法] 前期と後期のテストの結果と平常点を総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>英和監査法人(編) 「英文財務諸表の実務一日米会計基準の比較と作成方法」</p>		
<p>[教科書] 寺坪 修(著) 「英文財務会計」 (中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業英語	01	通 期	4 単 位	岩 根 典 夫
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                  日本での「商業英語」は、実質的には貿易取引の業務を行うにあたって使用される英語、いわゆる「貿易英語」である。そして日本において貿易取引に実際には使用されている言語の約90%は英語、約5%はスペイン語、残り5%がフランス語、ポルトガル語、中国語、日本語等となっている現状にある。このように事情のもとで、この講義では、米・英ビジネス通信の諸様式及び基本文型の習得、基本取引条件協定書、申込みと承諾書、送状、信用状、為替等貿易実務に必要な事項や専門用語を英語にて表現することを学ぶ。                  従って授業を欠席しないようにすることが肝要である。</p>		<p><b>[講義計画]</b>                  &lt;前期&gt;(1) ビジネス英語の特質                  (2) ビジネスレターの構成要素と形式                  (3) 取引の申込み                  (4) 信用照会                  (5) 引合い及びオファー                  (6) 取引一般条件協定書</p> <p>&lt;後期&gt;(7) 注文                  (8) 信用状(1/c)                  (9) 船積                  (10) 決済                  (11) 苦情とその調整                  (12) 国際電気通信</p>		
<p><b>[成績評価の方法]</b>                  定期試験の成績を主たる基準とし、これに出席状態並びに平常英を加えて評価する</p>		<p><b>[参考文献]</b>                  授業中に紹介・説明する。</p>		
<p><b>[教科書]</b>                  (主) 碓井・大塚・福田(共著)『最新ビジネス英語-改訂版』                  (副) 中村 梨著『テーマ英作文・日本』(金星堂)(成美堂)                  (注意) 上記(主)+(副)計2冊、学年始に両者とも購入のこと。</p>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	1 1	通 期	4 単位	尾 崎 耕 司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、日本史や日本文化論について、諸外国で紹介されるケースが多くなっている。しかし、その内容がどのようなものかは、国内ではあまり知られていない。</p> <p>本講義では、その代表例ともいえる“THE CAMBRIDGE HISTORY OF JAPAN”をとりあげ、その内容を吟味したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義は、輪読形式で、報告者を決め、毎回テキストをおおよそ2～2.5ページの割合で読み進めていく。英文そのものは、必ずしも難解ではないが、相応の日本近現代史に関する知識が必要である。年表等を持参することをすすめる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>成績は、毎回の出席と、報告内容、報告からもれた者には試験を課して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>“THE CAMBRIDGE HISTORY OF JAPAN Volume6 The Twentieth Century” Edited by PETER DUSS ©CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS 1988</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	1 2	通期	4 単位	津田 和夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>政治、経済、金融等に関する英文の新聞、定期刊行物、インターネット上の英文情報などを読みこなす能力をつける。</p> <p>教科書で基本的読書の勉強を始めるが、随時新聞記事などにより、速読し要点をつかむ訓練をする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期は教科書を読む。</p> <p>後期は時事英語に集中する</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、随時行うレポート、期末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>主に読む新聞、刊行物</p> <p>Financial Times</p> <p>The Economist</p>			
<p>[教科書]</p> <p>[Banks under Stress] OECD1992</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	13	通 期	4 単位	テキ 翟 リンヨ 林 瑜
[講義概要・学習目標]  中国経済全般に関する中国語文献の読解力を高め、最新の中国語文献で変貌する現代中国の姿を知ることを中心に、文献の輪読と討論の形で授業を進める。	[講義計画]  学生のレベルに合わせて、やさしい文献から始まり、徐々に読解力を高めていく進め方で授業の内容と難易度を定める。			
[成績評価の方法]  平素成績とテストの成績で評価する	[参考文献]			
[教科書]  特に指定しない。随時配布する予定。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	14	通 期	4 単位	寺 中 直 人
[講義概要・学習目標]  この講読では、都市史、都市政策・計画、住宅問題、土地政策についての英語の文献と一緒に読むことを中心に進める。使用するテキストは、履修者の上記のテーマに対する興味と英語の能力に合うものを採用しようと考えている。それゆえ、初回の授業では、いくつかの本や論文を提示し、履修者の希望を聞きつつテキストを決めるので、履修者は必ず出席すること。  この講義で習得してもらいたいことは、対象とするテキストを、全体の流れに即してその内容を把握し、それをまともな日本語で、いかに他者に伝えるかということである。それゆえ、文法や個々の単語には、それほどこだわらない。ただし、専門的な用語は注意を払う必要があるため、詳しく解説する。	[講義計画]  <前期> 文献和訳を中心に、上記のテーマを解説する。  <後期> 前期のテキストが、受講生にとって適切なものであったかどうかを勘案しつつ、後期のテキストを決める。			
[成績評価の方法]  学生諸君の輪読を中心に行うので、出席評価を重視する。それゆえ、予習は不可欠である。予習が不十分であれば、出席していても点数はない。また、小テストを1回、および学年末試験もおこなう。詳しくは、最初の講義で説明する。	[参考文献]			
[教科書]  テキストは、コピーして渡します。				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	15	通 期	4 単位	濱 田 博 男
<b>[講義概要・学習目標]</b> 経済書・雑誌論文・新聞記事などを読み、英文の情報をつうじて今日の世界・日本経済の現状とその抱える諸問題を広く理解できるようにしたい。 継続しての学習努力が必要なので出席を重視します。宿題も課します。授業には辞書必携。 テキストは当方でコピーし、授業時に配布します。	<b>[講義計画]</b> <前期> 平均的な英語読解力に配慮し、比較的やさしい新聞経済記事を中心にし、経済英語に慣れるようにします。  <後期> やや難しい経済論文に重点を移す予定。			
<b>[成績評価の方法]</b> 平常成績（出席状況、毎回の課題・宿題にたいする努力状況）と年2回のテストの成績で総合評価します。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	16	通 期	4 単位	原 正 行
<b>[講義概要・学習目標]</b> 経済学に関する英語の読解力向上 経済学基礎理論の学習とその応用 英語の読解力向上	<b>[講義計画]</b> 事前の担当と深め、輪読する			
<b>[成績評価の方法]</b> 平常点	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> <u>Economics</u> by P. Samuelson & W. Nordhaus, 13th edition McGraw-Hill Book Co.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	17	通 期	4単位	前田 治郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化が強調されるようになって久しい。この講読では、視野を広げて、現代ヨーロッパの社会・経済状況と向き合ってみたい。時あたかも1999年1月の単一通貨ユーロ導入を目前にして、今年はさまざまな動きが現れてくるはずである。</p> <p>なお、この科目は「フランス語」の講読であり、辞書を片手にフランス語と取り組んだ経験があること、が履修の最低限の条件となる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ル・モンド紙とフランス外務省がインターネット上に公開している各種新聞論調の要約を素材とし、それを分担して日本語に翻訳していく。テーマについては、参加者の意見を聞きながら、絞り込んでいきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常評価</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>1. テキストはコピーして随時配布する。 2. 各自の利用しやすい仏和辞書を携帯すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	18	通 期	4単位	米山 隆
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>次のいずれかであるが、まだ、きめていない。 (1) EU (European Community) の法的構成。 (2) 法と経済との関係。 (3) 立法過程について。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>順序にしたがって、全員が読み終えて、訳すところ。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>Reportの作成。出席は重視する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義開始前に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	19	通 期	4 単位	藤 岡 純 一
<p><b>〔講義概要・学習目標〕</b></p> <p>スウェーデンは、先進工業国であるとともに福祉の進んだ民主主義国家として知られている。どのようにしてこのような国が出来上がったのであろうか？みんなで考えてみよう。</p> <p>本講読では、スウェーデンの経済、環境保護、社会福祉、政党について英語で書かれたパンフレットをいっしょに読んでいく。英語は比較的平易である。スウェーデンでは、多くの事柄について、英語で諸外国の人たちに理解してもらおうと、パンフレットを作成している。この努力と期待に応えたいものである。</p>	<p><b>〔講義計画〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スウェーデンの経済</li> <li>2. スウェーデンの環境保護</li> <li>3. スウェーデンの社会保険</li> <li>4. スウェーデンの高齢者福祉</li> <li>5. スウェーデンの政党 など。</li> </ol> <p>各パンフレットとも4-5ページの短いものである。</p>			
<p><b>〔成績評価の方法〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平常点</li> <li>2. 学年末のテスト</li> </ol>	<p><b>〔参考文献〕</b></p> <p>スウェーデン社会研究所『スウェーデンハンドブック』早稲田大学出版会 藤岡純一編著『スウェーデンの生活者社会』青木書店</p>			
<p><b>〔教科書〕</b></p> <p>Fact Sheets on Sweden, published by the Swedish Institute</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	20	通 期	4 単位	竹 原 憲 雄
<p><b>〔講義概要・学習目標〕</b></p> <p>Robert Cassenの“Does Aid Work”をテキストに、発展途上国への援助は役に立っているのか、を問うてみる。</p> <p>これは途上国の国民生活ばかりか、我々納税者にとっても切実な問題である。それはまた「援助大国」日本の実像と、環境やエイズなどグローバルな課題の行方を示している。</p> <p>これらをふまえて「南北の時代」21世紀を展望してみたい。</p>	<p><b>〔講義計画〕</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の援助の概要を知ったうえで、基本的な課題として「Aid and Poverty」を読む。</li> <li>2. 「The macroeconomic contribution of aid」を対象とする。</li> </ol>			
<p><b>〔成績評価の方法〕</b></p> <p>出席状況、分担部分の和訳、および前・後期末の試験によって総合評価する。</p>	<p><b>〔参考文献〕</b></p>			
<p><b>〔教科書〕</b></p> <p>Robert Cassen “Does Aid Work” (Clarendon Press・Oxford)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	21	通 期	4 単位	何 為
<b>[講義概要・学習目標]</b>  海外直接投資に関する理論的進展を整理して日米間の対応策を検討し、日本経済の課題を解明する。この講義を通じ、中国語経済書を読むようになること。	<b>[講義計画]</b>  通年講義で、100ページを読み、1学期50ページ程度、1講義あたり5-6ページ程度。			
<b>[成績評価の方法]</b>  平常点	<b>[参考文献]</b>  『海外直接投資と日本経済』 原 正行著 有斐閣			
<b>[教科書]</b>  『海外直接投資論』 原 正行著 封小雲訳 暨南大学出版社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	31	通 期	4 単位	小 川 登
<b>[講義概要・学習目標]</b>  ドップの名著『賃金論』を通じて、社会科学入門を学びたい。M. Dobb, Wagesはケインズが初代編集長をつとめたThe Cambridge Economic Handbooksのなかの1冊であり、古典的名著といえよう。初版は1928年。 ドップの文体は難解そのもので、訳しがいがあるというもの。賃金論というよりも賃金制度論と言ったほうが適切で、資本主義経済全般の制度分析となっている。その意味で、きびしい内容の社会科学入門といえよう。	<b>[講義計画]</b>  (前期) ドップの文章が難解なので正確な逐語訳をしていく予定。 (テキストが絶版となっているので、当方でコピーして配布する。)  (後期) ChapterIVの「Theory of Wages」に重点をおく予定。			
<b>[成績評価の方法]</b>  12月末日までに提出していただく第4章「賃金の理論」の逐語訳レポートで決める。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  M. Dobb (著) 「Wages」 (James Nisbet)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読 Case Management と Advocacy	32	通 期	4 単位	北 野 誠 一
<b>[講義概要・学習目標]</b>  Encyclopedia of Social Work (全3巻 NASW出版)の第19版を使って、全291項目の内、あらかじめ指定された項目(1項目につき英文A4、10ページ程度)を、月に1項目のペースで、全訳作業を行なう。  作業は、全員各自で行ない、訳文をチェックする月の前日までに、教員に必ず提出し、全員のコピーを使って、訳文を全員でチェックする。  今回は、アメリカを中心とするケースマネジメントの問題点とサービス利用者の権利擁護(アドボカシー)に関する項目の訳出とその検討作業を行なう。	<b>[講義計画]</b>  4月 Encyclopedia of Social Work (全3巻)の説明と291項目の説明 5月 Long Term Careの項の作業 6月 Case Managementの項の作業 7月 Managed Careの項の作業 10月 Elder Abuseの項の作業 11月 Advocacyの項の作業 12月 Adult Protective Servicesの項の作業 1月 Patient Rightsの項の作業			
<b>[成績評価の方法]</b>  無断欠席及び各月の訳文提出をしない者は、不可。 かなり厳しい作業量と作業内容になるので、生半可な気持ちでの受講は許されない。	<b>[参考文献]</b>  適宜、講義中に指示する。			
<b>[教科書]</b>  Encyclopedia of Social Work 第19版の必要項目について、適宜配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	33	通 期	4 単位	村 山 高 康
<b>[講義概要・学習目標]</b>  戦後冷戦史の概観をするため、冷戦構造崩壊の状況から検討する。テキストはそのために書かれた簡潔な内容である。内容のレベルは英字新聞程度である。国際政治に興味をもつ受講生を特に対象とした。	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b>  出席重視は当然であるが、もちろんそのうえで日常の読解の努力を総合評価。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  Richard CROCKKATT, "The End of the Cold War" テキストはコピーしたものを用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書講読	34	通 期	4 単位	森 本 良 男
<b>[講義概要・学習目標]</b> アメリカ、欧州、アジア諸国の英字新聞、雑誌などをじっくり読んで、とくに次の二つのことを考えてみたい。 1、諸外国のジャーナリズムの特徴、日本のジャーナリズムとの違い、共通性など。 2、諸外国の政治、経済や社会の動き、人々の生活と考えを活字メディアから直接入手するには、どんな新聞、雑誌をどのように読めばよいのか。 教材は、その時々の新聞、雑誌のコピーを使って、できるだけホットな問題をとりあげていきたい。	<b>[講義計画]</b> (前期) 新聞のニュース記事、解説を中心に読む。 (後期) 雑誌類の各分野にわたる、やや長い記事を読む。			
<b>[成績評価の方法]</b> こうした講義は「継続こそ力」ですから、①出席②授業への準備の努力、を重視した平常の成績で評価します。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国書購読	51	通期	4単位	津戸正廣
<b>[講義概要・学習目標]</b> 広い意味で経営学に関する新聞や雑誌の英文記事を素材にして、議論を重ねます。英語学の授業ではないので、むしろ経営学的センスを磨くことを主要な目標にします。最近の話題を取り上げるので、最も現代的なテーマについて考える良い機会となります。経営学上の用語を中心にして、さらには政治・経済・法律・社会・文化に関する用語を英語で表現すればどうなるかがわかります。 毎回、できるだけ多くの受講生に指名しますので、予習を怠らないようにしてください。進度はそれほど速くはないので、丹念に辞書をひく習慣をつけてください。ただし、翻訳だけに偏らずに、受講生に率直な意見を出しあってもらい、授業を盛り上げます。英訳だけでは、深い印象が残らないし、新たな興味を引き起こしにくいからです。 英語が得意な人にも不得意な人にも、やる気をおこさせる授業にしていきたいと思っています。 社会に出てからも、積極的に活躍できるよう、そのための基本的な能力を積み上げていきます。	<b>[講義計画]</b> 4月および5月は、なるべく基本的な話題を取り上げて、英文の記事に慣れてもらいます。例えば、日本の企業の現状、最近の勤労者の姿勢・傾向などに関する素材を取り扱います。また、勉強の仕方についても、アドヴァイスします。 6月および7月は、経営学に関する特定の問題についての記事を取り上げ、やや深く議論をします。例えば、バブル崩壊後の企業の現状、日本の経営の変質などに関する話題を扱います。 9月および10月は、英文を読みこなすだけでなく、各受講生に自分の意見を発表してもらう機会を増やします。特に、日本の現状を打開するための方策などについて、率直に意見を交わしたいと思います。 11月から1月までは、多くの受講生が興味を持っているテーマを見極め、そのテーマを集中的に議論します。 1年間の授業を通じて、自信を持って議論できるテーマをいくつか身につけてもらいます。この自信は、他の諸問題を考察する場合にも、役立ちます。			
<b>[成績評価の方法]</b> 授業への出席を最も重視します。さらには、経営学理解の到達度、討論への熟意、積極的な質問なども総合的に考慮して評価します。	<b>[参考文献]</b> 必要に応じて指示しますが、日頃から現代の日本に生じている諸問題について、新聞・雑誌・テレビなどを通じて、よく知っておくことが、最良の参考になります。			
<b>[教科書]</b> プリントを配付します。				







科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリス文学史Ⅰ (旧英文学史)		通 期	4 単位	金 城 盛 紀
<b>〔講義概要・学習目標〕</b> イギリスの文学をその中世における起源より17世紀まで、できるだけ作品に触れながら跡づける。時代背景や作家・作品の特徴などにも注意を向けるが、無味乾燥になりがちな抽象的説明は最小限にして、作品をとおして偉大な文学の流れを追体験できればと願っている。相当な予習を必要とするが、努力は英文学の豊かさや面白さを味わう形で十分に報いられるものと思う。	<b>〔講義計画〕</b> 対象となる主な作家は次のとおりである。 Chaucer, Spenser, Bacon, Marlowe, Shakespeare, Donne, Jonson, Milton, Marvell, Bunyan, Dryden, Swift, Pope なお、指定テキスト以外にも必要に応じてプリント資料を使用する予定。			
<b>〔成績評価の方法〕</b> 試験と平常点	<b>〔参考文献〕</b> 金城盛紀『花のイギリス文学』（研究社出版）			
<b>〔教科書〕</b> 同志社女子大学英文学科編『イギリス文学の精華』（南雲堂）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																																
アメリカ文学史 (旧米文学史)		通 期	4 単位	中 井 紀 明																																
<b>〔講義概要・学習目標〕</b> 『白鯨』『スカーレット・レター』『偉大なるギャッツビー』『老人と海』『ボストンの人々』などは映画でお馴染みの作品だが、実はこれらはアメリカ文学史上傑作と認められている小説を映画化したものである。このような作品を産みだした源流を、英国から北米大陸への移民が始まった17世紀にまで遡り、そこから現代までのアメリカ文学の流れを思想史としてとらえる講義をする。現代文学を理解するにはその源流をしっかりと把握しておかなければならないので、できるだけ作品の原典を押さえながら講義を進めて行く。したがって、当然予習が必要となる。毎回の講義を詳細にアウトラインで示したものを準備するので、それに従って予習をしておくこと。	<b>〔講義計画〕</b> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">前期</th> <th colspan="2">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学</td> <td>1-2</td> <td>アメリカ文学の独立 Melville</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>18世紀の啓蒙主義</td> <td>3-4</td> <td>文学思潮の変化 Realismの文学 Twain, Howells, James</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Bghmins</td> <td>5</td> <td>文学思潮の変化 Naturalismの文学 Crane, Norris, Dreiser</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アメリカ文学の独立</td> <td>6-8</td> <td>両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau</td> <td>9</td> <td>両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, cummings</td> </tr> <tr> <td>9-10</td> <td>アメリカ文学の独立 Hawthorne</td> <td>10-11</td> <td>第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユダヤ系 の作家</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				前期		後期		1-2	アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学	1-2	アメリカ文学の独立 Melville	3-4	18世紀の啓蒙主義	3-4	文学思潮の変化 Realismの文学 Twain, Howells, James	5-6	アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Bghmins	5	文学思潮の変化 Naturalismの文学 Crane, Norris, Dreiser	7	アメリカ文学の独立	6-8	両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner	8	アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau	9	両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, cummings	9-10	アメリカ文学の独立 Hawthorne	10-11	第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユダヤ系 の作家	11	アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson		
前期		後期																																		
1-2	アメリカへの移民 ピューリタンの思想と文学	1-2	アメリカ文学の独立 Melville																																	
3-4	18世紀の啓蒙主義	3-4	文学思潮の変化 Realismの文学 Twain, Howells, James																																	
5-6	アメリカ文学の独立 Irving, Cooper, Bryant, Bghmins	5	文学思潮の変化 Naturalismの文学 Crane, Norris, Dreiser																																	
7	アメリカ文学の独立	6-8	両大戦間の文学 Cather, Anderson, Fitzgerald, Hemingway, Faulkner																																	
8	アメリカ文学の独立 Emerson, Thoreau	9	両大戦間の文学 Frost, Sandburg, Stevens, cummings																																	
9-10	アメリカ文学の独立 Hawthorne	10-11	第二次世界大戦後のアメリカ文学 南部の作家、黒人作家、ユダヤ系 の作家																																	
11	アメリカ文学の独立 Whitman, Dickinson																																			
<b>〔成績評価の方法〕</b> 定期試験および随時行うクイズの成績と平常の努力点	<b>〔参考文献〕</b> 『コロンビアアメリカ文学史』（山口書店）など。（授業中に指示する）																																			
<b>〔教科書〕</b> 谷本泰三他著『初めて学ぶアメリカ文学史』（金星堂、1995）																																				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学概論	01	通 期	4 単位	Kevin R. Gregg
<b>[講義概要・学習目標]</b> 英語学は、英語を対象とする言語学、つまり言語の科学である。科学だからこそ、言語学者は、言語現象を記述したりするだけでなく、その現象を説明しようとする。 ー「概論」だから、英語の諸現象の念入りの記述も説明も不可能であるし、英語に関してきめ細かい、表面的なデータをたくさん与えるつもりもない。むしろ、英語の音韻体系、語彙や文の構造、などについての基盤となる概念のみを紹介して、把握してもらおうとする。 ー「英語学」だから、だいたい英語の現象について語る。が、日本語その他の言語のデータをも与えて、宿題や試験の対象にすることもありうる。 ー本授業の目的は、単に英語に関する事実を山ほど覚えてもらうことでは決してない。むしろ、英語を人間言語の一例として、言語学という科学の研究対象と、その研究の方法を把握してもらおうことである。従って、教職課程の学生にとっては、それほど役立つ授業になるとは思えない。	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 小テストも年末定期試験も行う。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 中島平三、「ファンダメンタル英語学」ひつじ書房1995				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語学概論	02	通 期	4 単位	三 宅 亨
<b>[講義概要・学習目標]</b> 英語学(English Linguistics)は、英語という言語の構造や機能に関する科学的研究である。英語の音声・形式・意味に関する諸領域における研究成果を紹介すると同時に研究方法についても言及したい。現代の英語を様々な角度から取り上げるだけでなく、歴史的な観点から英語の発達過程についても考察する。また、言語習得理論や社会言語学などの英語学の関連諸分野についても論じる。 英語学研究を志す学生や英語教員を目指す学生の受講を歓迎する。 講義では、handouts(配布資料)を利用して、教科書には書かれていない内容について話す時間をとりたいので、テキストは予め読んだうえで講義に臨んでもらいたい。	<b>[講義計画]</b> <前期> 1. 英語学とは(総論) 2. 音声学 3. 音韻論 4. 形態論 5. 統語論Ⅰ(伝統文法) 6. 統語論Ⅱ(構造文法) 7. 統語論Ⅲ(生成文法) <後期> 1. 意味論 2. 語用論 3. 談話文法 4. 英語史Ⅰ(Old English) 5. 英語史Ⅱ(Middle English) 6. 英語史Ⅲ(Modern English) 7. 社会言語学			
<b>[成績評価の方法]</b> 遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b> 松浪有・池上嘉彦・今井邦彦(編)『大修館英語学事典』大修館書店 太田朗(編)『英語学体系』全15巻、大修館書店 その他、テーマごとに指示する。			
<b>[教科書]</b> 石黒昭博他『現代の英語学』金星堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学概論	01	通 期	4 単位	日 下 隆 平
<b>【講義概要・学習目標】</b> この講義はこれからイギリス文学を学んでゆくうえで、必要となる基礎的な事柄の修得を目標とする。 前期は主として、叙事詩や悲劇など文学作品のジャンルや形式に始まって、文芸批評の用語や詩型に至るまで英文学を学ぶうえで知っておかねばならない知識を学んでゆく。しかし、なにより大切なのは実際に（翻訳であろうとも）作品を読むことである。従って、後期は主として、個別研究の事例として世紀末から今世紀初頭にかけて書かれた作品にあたって、そのテーマ・思想・表現などを分析してゆく。 授業ではハンドアウトを配布して説明してゆく。また、背景を理解するためにビデオテープも用いて行くつもりである。	<b>【講義計画】</b> <前期> 文学のジャンル 詩の種類 詩型と規則 比喩、神話と象徴、 <後期> テーマによる文学 1 文学と都市 19世紀から今世紀に都市はどのように描かれてきたか J.Thomsonから世紀末へ 20世紀エリオットの場合—"Rhapsody on a Windy Night" 現代と文学 2 文学と現代 "The Hollow Men" "The Love Song of J.Alfred Prufrock" 3 アイルランド問題と文学			
<b>【成績評価の方法】</b> 授業中に課すレポートと前期・後期終了時に試験を行う。	<b>【参考文献】</b> 授業で指示する。			
<b>【教科書】</b> 高柳 俊一（著）『英文学入門』（大修館書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米文学概論	02	通 期	4 単位	出 原 博 明
<b>【講義概要・学習目標】</b> 主として近・現代の心理小説について論じます。 19世紀小説を完成させると共に20世紀心理小説の元祖となった巨匠 H. Jamesの各作『或る婦人の肖像』を中心テキストとして、その方法と内容について多角度から切り込み、心理小説の本質を解明します。例えば、人間の内面を描くのどのような方法が用いられているか、経験とは何か、意識とはどういうものか、時間とは如何なるものか、などが主題となります。 講義の範囲は、H. Jamesに限らず、この文学者の衣鉢を継いで20世紀心理小説を発展させた他の文学者たち、つまり、E. Wharton, V. Woolf, J. Joyce, D. H. Lawrence, M. Proust, などにも及ぶことになります。 これは又、或る意味では、モダニズムの研究と表裏をなすことにもなります。 （英語力があることが望ましい。ビデオも補助的に利用します。）	<b>【講義計画】</b> 前期の期間中に受講生は、電車の中や自宅での時間と空間を利用して『或る婦人の肖像』を読了しなければなりません。この期間、私は教室で、専門用語なども紹介しながら近・現代の小説芸術の傾向と諸特徴について講義します。後期は、受講生が『或る婦人の肖像』を読了しているということを前提として、頻繁に具体的にテキストに言及しながら、その内容と方法について詳細に論じます。その過程で、他の文学者や作品のことも必要に応じて取り込んでいきます。			
<b>【成績評価の方法】</b> 1回のレポート、1回のテスト、授業参加の積極度、この三つの成果を踏まえて総合的に判断する。	<b>【参考文献】</b> 教室で指示する。			
<b>【教科書】</b> 『或る婦人の肖像』上中下、ヘンリー・ジェイムズ作、行方昭夫訳、岩波文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語の構造	01	通 期	4単位	木 村 ゆ み
<b>[講義概要・学習目標]</b>  ひとくちに「言語の構造」といっても、音の構造、意味の構造、文の構造など、その意味するところは広い。本講では、文の構造に焦点をあて、統語論の観点から、まず、文のレベルでの分析をすすめ、高校までに既習の英語の構造を捉え直し、整理する。又、文レベルを越えた談話レベルにおいても、英語の様々な統語現象を総合的にとらえてゆきたい。	<b>[講義計画]</b>  <前期> 1 文と発話行為：文の機能 2 文の要素：構成要素の意味役割 3 文の構造：(1) 動詞の型 (2) 形容詞の型 (3) 名詞の型  <後期> 4 時制と相：(1) 時制 (2) 相 5 注意すべき文法範疇：(1) 法助動詞 (2) 否定 (3) 態 6 情報構造と主題構造			
<b>[成績評価の方法]</b>  前・後期試験、提出物、出席率により評価 遅刻、いぬわり、私語等は減点の対象となる	<b>[参考文献]</b>  その都度指示する			
<b>[教科書]</b>  村田勇三郎・成田圭市（共著）「英語の文法」（大修館書店）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語の構造	02	通 期	4単位	三 宅 亨
<b>[講義概要・学習目標]</b>  私たちは、あるルールに従って組み合わせた言語音（記号）を用いて自分の表現したいこと（意味）を開き手（読み手）に伝える。言語音とその連鎖である語や句・文にも、意味にもそれぞれ構造がある。つまり、文は単に幾つかの語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴き取ったり、話したりすることはできない。 この講義では、まず、文の構造をあつかう統語論(syntax)を中心にして、高校までに学んだ英文法の知識を現実に使われている英語と比べて整理し直す。同時に、伝統文法(traditional grammar)から生成文法(generative grammar)や機能文法(functional grammar)、語用論(pragmatics)、談話分析(discourse analysis)など最新の言語理論への橋渡しを試みる。	<b>[講義計画]</b>  1. 文 2. 動詞と文型 3. 時制と相 4. 語法 5. 態 6. 助動詞 7. 法と条件 8. 否定 9. 形容詞 10. 副詞類 11. 情報構造			
<b>[成績評価の方法]</b>  遅刻や欠席の多い学生には単位を与えない。前期・後期の定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意と小テスト・レポートなどに基づき、総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>  その都度指示する。			
<b>[教科書]</b>  毎回handoutsを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの詩 (英詩入門)		前 期	2単位	日 下 隆 平
<b>[講義概要・学習目標]</b> 25篇からなる暗唱用につくられたアンソロジーを用いて、イギリスの詩をたどってゆく。いずれも短いものばかりである。主な詩人はW. Wordsworth, W. Blake, T. Hood, Lord Tennyson, R. Browning, S. T. Coleridge, G. M. Hopkins, C. Rossetti, R. Herrick, T. Moore, R. Barnfield, E. Lear, L. Carroll, W. Habington, J. Taylor, J. H. Newman, などである。これらの詩について述べられたコメントなども参考にしつつ、詩を鑑賞し英詩の歴史をみてゆくつもりである。なおいずれも10行に満たないものであるため気に入った作品については暗唱することを心がけたい。	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> レポートによる。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> Peter Milward, <i>English Poems and Their Meanings</i> , (鶴見書店、1992) .				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの小説 (英国小説入門)		後 期	2単位	日 下 隆 平
<b>[講義概要・学習目標]</b> この授業では、今世紀前半の代表的な作家であるモーム、マンズフィールド、フォースターなどの短編小説を講読する。いずれも平明な文章であるが豊かな内容を持つものばかりである。主な作品は以下のとおりである。 W. S. Maugham, <i>The Romantic Young Lady</i> Katherine Mansfield, <i>The Singing Lesson</i> George Orwell, <i>Shooting an Elephant</i> E. M. Forster, <i>Ansell</i>	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 平常点と試験。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> College Reader for Everybody: Maugham, Mansfield, Orwell, Forster. (鶴見書店、1996).				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
イギリスの演劇 (シェイクスピアの悲劇)		前 期	2単位	金 城 盛 紀
<b>[講義概要・学習目標]</b> シェイクスピアの悲劇2編を学ぶ。現代英語がある程度読めれば、助けを借りてシェイクスピアの詩文も読める。英語の豊かさ、美しさを耳目を通して感じとり、人間の根源的な問題を執拗に追及する古くて新しいシェイクスピア劇の面白さを味わってもらえたらと思う。	<b>[講義計画]</b> 『ハムレット』と『リア王』の名場面を詳しい注釈をつけたテキストで熟読し、テープで聴き、ビデオで鑑賞する。テキストに梗概はつけてあるが、それぞれの作品全体は翻訳で読んでおくこと。			
<b>[成績評価の方法]</b> 試験と平常点による。	<b>[参考文献]</b> 金城盛紀『シェイクスピアの悲劇』(英宝社)			
<b>[教科書]</b> 金城盛紀・石田久(編注) <u>Scenes from Shakespeare Vol.3</u> (英宝社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの小説(19Cアメリカ短編小説)		前 期	2単位	佐々木 英 哲
<b>[講義概要・学習目標]</b> アメリカ・ロマン主義の作家、ポーとホーソーン、及びリアリズムの先駆けと言われるトウエイン、クレイン等の短編を試みに取り上げる。まずは基本的な「読み」、精緻な「読み」の作業から入り、作家が試みた表現の可能性にできる限り肉迫する。そのうえで、作品中にアメリカ的なものがあるとすればそれは何かを、浮き彫りにする作業までやってみよう。	<b>[講義計画]</b> まずはロマン主義の作家、ポーとホーソーンから手を染め、トウエイン、クレインに移る。原文に忠実に当たりつつ、問題点があれば取り上げ討論して進めていく予定。			
<b>[成績評価の方法]</b> 筆記試験、レポート、平常の出席状況から総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> <u>Classic American Short Stories</u> 成美堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アメリカの演劇（ミュージカル）		前 期	2 単位	出 原 博 明
<b>【講義概要・学習目標】</b> このジャンルで最もポピュラーな作品の一つ <i>The Sound of Music</i> をテキストとして、いかにもアメリカ的な新興の舞台芸術であるミュージカルについて勉強します。 英語はやさしいですが分量が相当あります。これを速読しながら、時々そのビデオも観て、実際に舞台上で上演するとどうなるか、ということも認識してもらいます。また、この作品の時代背景もなかなか大切なファクターになっています。そういうことについても一緒に考えていきましょう。	<b>【講義計画】</b> テキストの速読。上演した場合どうなるかをビデオ鑑賞をとおして認識する。ときにディスカッションを楽しみ、ときに必要に応じて解説もする。			
<b>【成績評価の方法】</b> 1 回のテストと授業参加の積極度	<b>【参考文献】</b> 教室で指示			
<b>【教科書】</b> <i>The Sound of Music</i> . Howard Lindsay and Russel Crouse, 金星堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米の映画（映画芸術の技法）		後 期	2 単位	出 原 博 明
<b>【講義概要・学習目標】</b> 現代の映画芸術について勉強します。 必要に応じて英米以外の国の作品も取りあげます。例えば、現代映画の技法や時間の問題は、ロシアのエイゼンシュテインやフランスのアラン・レネを抜きにして論じることは難しいでしょう。 人間の心理を映像で表現するのにどのような工夫が為されているか、シュールレアリズムと映画の関係、文学と映画の相互影響、などについてもお話しします。	<b>【講義計画】</b> 基本的には、理論をお話することとビデオによる映画鑑賞の二つを組み合わせながら授業をすすめていきます。ときには、クラス全員でディスカッションする機会を持ちます。			
<b>【成績評価の方法】</b> 1 回のテストと授業参加の積極度	<b>【参考文献】</b> 教室で指示			
<b>【教科書】</b> 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅰ (統語論入門)		前 期	2単位	清 水 真 一
<b>[講義概要・学習目標]</b>  当該言語の文法的な文とそうでない文とを峻別する仕組みとしての文法を考察の対象とする。本講では、とくに狭義の文法としての統語論の考えるにあたり、どのようなモデルが考えうるのか、また文・句の基本的構造をどう捉えるのかなどを考察することにより、統語論の第一歩を踏み出し、受講生に統語論の導入をおこなう。教員志望者はとくにふるって参加されたい。出席をとくに重視する。	<b>[講義計画]</b>  (1) 方法論について (2) 文法の基本的な仕組みと統語論 (3) 句・文の基本構造 (4) 英語に基づく若干の規則の導入			
<b>[成績評価の方法]</b>  原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語統語論Ⅱ (統率・束縛理論概説)		後 期	2単位	清 水 真 一
<b>[講義概要・学習目標]</b>  基本的に英語統語論Ⅰの関連した枠組みに基づいて講義する。しかし、本講のみで議論が完結するかたちでクラスをすすめる。とくに統率・束縛理論の導入といくつかの分析の実際を紹介し、その着想の修得を目指したい。そのなかで、受講生各位が統語論、ひいては言語に対する自分なりの考え方を形成していく一助となれば幸いである。教員志望者はふるって参加されたい。出席をとくに重視する。	<b>[講義計画]</b>  (1) 統率・束縛理論導入 (2) 英語の基本的構文の種類について (3) 規則・表示に課せられる制約について (4) 統率・束縛理論と最近の言語研究についての若干のコメント			
<b>[成績評価の方法]</b>  原則として、試験、クイズ、出席に基づいて総合評価をおこなう。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  プリントを配布する。				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
意味論 (意味論の基礎概念)		前 期	2単位	Kevin R. Gregg
[講義概要・学習目標]  意味論は、当然言語における意味に関する、言語学の下位分野である。ここで言う「意味」とは、文脈のない文または語彙の意味である。(文脈と意味との関係は、語用論の分野である。) 本授業では、意味論の基礎概念を学ぶ。「基礎概念」に含まれているものは、たとえば文と命題、意味と指示、指示表現、述語と項、意味の特徴、意味関係(同義性、伴立、曖昧性、など)、論理学、など	[講義計画]			
[成績評価の方法]  毎回小テストを行う。学期末定期試験はない。	[参考文献]			
[教科書]  Hurford, J.R. & B. Heasley, <i>Semantics: a coursebook</i> . Cambridge UP 1983.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語用論 (語用論の基礎概念)		後 期	2単位	Kevin R. Gregg
[講義概要・学習目標]  意味論が文や語彙の文字どおりの意味に関する分野なら、語用論は文の、文脈による解釈に関する分野である。話者がXを言ったのにYを伝えたことがよくあるが、聴者が正しく解釈できることがなぜか説明するのは、語用論の課題である。  本授業では、語用論のつぎの三つの話題を取り上げる： 1) 前提 2) 発話行為 3) 含意	[講義計画]			
[成績評価の方法]  小テストをいくつか行う。	[参考文献]			
[教科書]  毛利可信、「英語の語用論」大修館書店1980				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅰ (親子問題)		前 期	2単位	岡 田 章 子
<b>[講義概要・学習目標]</b> Shakespeare: <u>King Lear</u> を読みながら、本書に登場する2組の親子のあり方を考察する。これは16世紀のイギリスの作品でありながら、基本的には現代にも通ずる親子の問題を扱っている。これを基礎に学生が自分で親子問題を考えられるようにしたい。さらに文学作品への愛好を深め、自分で好みに合わせて作品を読む習慣を身につけてほしい。毎時間相当の分量をすすめるので、多くの読書が必要である。	<b>[講義計画]</b> 1. 導入 — 親子問題とは 2. 16世紀のイギリス紹介 3. シェイクスピア紹介 4. 『リア王』を読み、それに沿って親子問題を考える 5. ビデオで『リア王』を鑑賞 6. まとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> テスト、レポートも加えるかもしれない。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> ウィリアム・シェイクスピア 『リア王』 (小田島雄志訳) 白水ムックス (白水社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅱ (家庭問題)		後 期	2単位	岡 田 章 子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 最近 Jane Austen が見直されている。いくつかの作品が映画化され、英国でもBBC放送で取り上げられた。主に家庭内の問題に焦点を合わせた作品が時代をこえて人の心をとらえるからである。本講義では『自貢と偏見』の冒頭の有名な言葉「独りもので金があるといえば、あとはきつと細君をほしがっているにちがいない」というのが、世間一般のりわは公認真理といえる。これをスタートとして、英国社会の家庭問題を考察し、それが現代日本にも通ずることを示す。学生が文学作品を愛好し、その中から自分の問題と考えられるようになることを期待する。毎時間相当の分量をすすめるので、多くの読書が必要である。	<b>[講義計画]</b> 1. 導入 — 家庭問題とは 2. ジェイン・オースティンとその時代解説 3. 『自貢と偏見』解説 4. まとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> テスト、レポートも加えるかもしれない。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> ジェイン・オースティン 『自貢と偏見』 中野好夫訳 新潮文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅲ (エイズと演劇)		前 期	2単位	藤 森 かよ子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 講義目的：逃避手段としての文学ではなく、暇つぶしのための文学ではなく、社会の不正と闘う力となる文学もあることを考える。それを読む。議論する。 講義概要：アメリカ合衆国において20世紀最後の20年間において、最大のトピックのひとつは、エイズという病気（正確に言えば、症候群・さまざまな症状）だった。この病気にまつわる差別への抵抗や運動は、まさにアメリカ的だった。もし、日本でアメリカのようにエイズが流行し多くの患者が苦しんでも、差別が蔓延しても、アメリカで生まれたような抵抗や運動は組織されず、悲劇は拡大しただろう。 なかでも、演劇はこの病気にもっとも敏感に反応した。エイズ差別の解消と啓蒙のために、もっとも速やかに自らの様式を利用し活用した。本講義でとりあげるのは、エイズとエイズ差別のために大きな運動を展開した活動家ラリー・クレイマー(Larry Kramer)が自らの体験を劇化したものである。		<b>[講義計画]</b> 第1回：なぜエイズか？エイズと現代アメリカ文学と現代アメリカ文化 2回： <u>The Normal Heart</u> を読む 3回： 同上 4回： 同上 5回： 同上 6回： 同上 7回： エイズ活動のビデオ映画を観る： <u>And the Band Played on</u> 8回： <u>The Normal Heart</u> を読む 9回： 同上 10回： 同上 11回： 同上 12回： 同上 13回： まとめ		
<b>[成績評価の方法]</b> 出席／受講態度：70%（欠席5回で失格） レポート：30%		<b>[参考文献]</b> スーザン・ソング著・富山太佳夫訳 『隠喩としての病・エイズとその隠喩』（みすず書房・1992）  ランディ・シュルツ著・曾田能宗訳 『そしてエイズは蔓延した』上下（草思社・1991）		
<b>[教科書]</b> Larry Kramer, <u>The Normal Heart</u> (Plume Books,Penguin,1985) その他適宜、資料を利用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学Ⅳ (家族の憂うつ)		後 期	2単位	藤 森 かよ子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 講義目的：「家族」というもっとも基本的な人間関係、もっとも小さな集団は社会の縮図。幸福の源泉でもあり、諸悪の根元でもある。どちらにしても「家族」に油断してはならないことを考える。議論する。これを考えなければ、「あなた自身の」人生は始まらない。 講義内容：「家族」対しても、「会社」「国家」に対しても、集団べつたりが伝統であった日本人が、最近「個人」であることを推奨されてきている。自己責任ある集団への参加が求められている。現代アメリカで、家族の問題を乾いた叙情で、クールに描くことで知られるデイヴィッド・レイヴィット(David Leavitt)の短編小説集『ファミリー・ダンシング』(Family Dancing)から、それを考える。		<b>[講義計画]</b> 第1回：なぜ家族か？家族と現代アメリカ文学と現代アメリカ文化 2回： <u>Family Dancing</u> を読む 3回： 同上 4回： 同上 5回： 同上 6回： 同上 7回： アメリカにおける家族問題のビデオ映画を観る 8回： <u>Family Dancing</u> を読む 9回： 同上 10回： 同上 11回： 同上 12回： 同上 13回： まとめ		
<b>[成績評価の方法]</b> 出席／受講態度：70%（欠席5回で失格） レポート：30%		<b>[参考文献]</b> 上野千鶴子著『近代家族の成立と終焉』（岩波書店・1994） 牟田和恵 著『戦略としての家族』（新曜社・1996） 坂本佳鶴枝著『〈家族〉イメージの誕生』（新曜社・1997）		
<b>[教科書]</b> David Leavitt, <u>Family Dancing</u> (Warner Books,1984)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学V（文学と市場）		後 期	2 単位	佐々木 英 哲
<b>【講義概要・学習目標】</b> 文学作品は独立した一編の芸術作品だと見なすことができるのだろうか。作品を解釈する際には、綿密なるテキスト「内」純粋分析に留まるべきで、テキスト「外」的事象はことごとく排除すべきなのであろうか。 十九世紀のアメリカと言えば、資本主義興隆の萌芽が見られる時期である。市場主義、大量消費主義の幕開けの時代であり、資本主義の要諦に応じて、今日にまで打ち続くジェンダー・ロール（性別）が固まった時代である。この時代に、家庭の女性読者層をターゲットにした感傷小説が女性流行作家によって書かれ、爆発的に売れた。 ソーロウ、ホーソーン、メルビル等はこのような時代の波を受けずに済んだのだろうか。この辺りの疑問から出発する。	<b>【講義計画】</b> 次の作品をあらかじめ読んでおくことが望ましい。ソーロウの <u>Walden</u> 、ホーソーンの <u>The Scarlet Letter</u> 、 <u>The House of the Seven Gables</u> 、メルビルの <u>Moby-Dick</u> 、 <u>"Bartleby"</u> など。 半期で文献一冊を読み終えたい。受講人数にもよるが、授業の進め方はレポーターによる問題点の整理発表、それを受けての討論、という形をとることになると思われる。			
<b>【成績評価の方法】</b> 授業に於けるレポーターとしての発表、及び学期末に於けるレポート提出から評価する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> Gilmore, Michael T. <u>American Romanticism and the Marketplace</u> . Chicago: U of Chicago P, 1985.				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代の諸問題と英米文学VI (愛の諸相)		後 期	2 単位	金 城 盛 紀
<b>【講義概要・学習目標】</b> 文学における永遠のテーマのひとつは愛である。わけても男女の愛である。片思いあり、相思相愛あり、挫折する愛があり、成就する愛がある。唯我の愛があり、没我の愛もある。迷いの愛もあれば、絶対的の愛もある。このような愛のいろいろをイギリスの文学はゆたかに表現する。人生の悲しみと喜びは愛の文学に凝縮されている。そのような文学に触れることにとって、英語が読める喜びも確認したい。	<b>【講義計画】</b> イギリスの代表的作家のなかからしかるべき作品を選んで精読し、できるだけテープで聴き、可能であればビデオで観る。			
<b>【成績評価の方法】</b> 試験および平常点	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語史 (旧英語学特講Ⅰ－英語史)		通 期	4 単位	野 原 康 弘
[講義概要・学習目標] イギリスを旅してまわると、いろいろなところで、いろいろな民族の残したのを見ることできる。南西部のソーズルベリー平原には、ケルト民族の遺産であると言われている「ストーンヘンジ」が今でも謎として残されている。スコットランドに近い北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約二千年前のローマ人の支配の強さを見せつけている。「サクソン海岸」と呼ばれている東部の海岸は、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院の遺跡」はバイキングの侵略の激しさを物語っている。さらに辞書の上では、おびたしい数の「フランス語からの借用」が1066年以後、約300年以上のノルマン人の征服と支配を私たちに知らしめている。 このような外的な歴史の変化にともなって、英語自身も大きく変化してきたのである。したがってこの講義では、「英語」という言語が、外的な歴史と関連して、「英語」自身の内的な歴史をどのように展開してきたのかを学ぶことになる。	[講義計画] 前期 1. 英語の祖先語 2. ケルト人の遺産 3. ローマ人による征服 4. ゲルマン人による征服 5. 英語の始まり 6. 古期英語 7. バイキングによる侵略 8. ノルマン人による征服 9. 中期英語前期 後期 1. 中期英語後期 チョーサーの英語 2. 近代英語の始まり 英国のルネッサンス シェイクスピアの英語 3. 近代英語後期 4. 世界の英語 5. アメリカ英語			
[成績評価の方法] 前期と後期の試験、講義への出席	[参考文献] 授業中にそれぞれ指示する。			
[教科書] 『英語史』 松浪有(編) 大修館書店 英語学コース11				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語文法論 (旧英語学特講Ⅱ－文法論)		通 期	4 単位	長谷川 存 古
[講義概要・学習目標] 英語の動詞は文の中心に位置し、英文の構造の中でも最も肝要なものである。この講義では、英語の動詞の文法を一年間にわたって取り扱うことにする。 特に取り上げる事項は、「現在」「過去」といったTense(時制)、「進行」「完了」といったAspect(相)、そして、MAY, MUST, CANなどの助動詞で表されるMOOD(法)である。 英語動詞の文法としてはすでに古典の位置を占めているLeechの著書を教科書としつつ講義を進める。	[講義計画] (前期) 1. Simple Present and Past Tenses 2. Progressive Aspect 3. The Expressions of Past Time (後期) 4. The Expressions of Future Time 5. The Primary Modal Auxiliaries 6. Indirect Speech			
[成績評価の方法] 平常の授業時の成績と、前期末、学年末などの試験の成績などによって総合的に評価する。	[参考文献] Quirk et al., <i>A Comprehensive Grammar of the English Language.</i> (Longman)			
[教科書] Geoffrey N. Leech, <i>Meaning and the English Verb.</i> (ひつじ書房)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語習得論 (旧英語学特講IV-英語教授法)		通 期	4単位	Kevin R. Gregg
<b>[講義概要・学習目標]</b> 言語学という科学は、特につぎの三つの質問に答えようとする： 1) 言語の知識は、どのようなものなのか。 2) 言語の知識は、どういうふうに獲得されるのか。 3) 言語の知識は、どういうふうに使用されるのか。 本授業は、その(2)に関するものである。われわれは、自分の母語に関して非常に複雑かつ微妙な知識を持っているが、その知識を、どうやって得たかは、説明すべき問題である。本授業では、子どもの母語(特に英語や日本語)の獲得過程のデータを考慮しながら、提案されている説明を考える。  つぎの点に注意してほしい： --獲得を説明するために、何が獲得されるのか(上の(1))を把握しなければならない。従って、学生諸君が文法論を理解しているという前提に基づいて授業を行う。  --本授業はあくまでも母語の獲得に関するものであり、外国語の学習に関するものではない。なおさら教育法とは、縁がない。	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験も小テストも行う。 出席する義務は、もちろんないが、よく欠席したり、念入りノートをとらなかつたりするならば、単位をとる可能性は極めて低い。そして私語したり眠ったりする、マナーを知らない学生は、除籍されかねない。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  小林春美・佐々木正人編、「子どもたちの言語獲得」大修館書店1997				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語パブリック・スピーキング		通 期	4単位	Raou l Cervantes
<b>[講義概要・学習目標]</b> (purpose) The purpose of this class is to learn how to: • Give effective speeches and information presentations • Compose clear speeches • evaluate speech performances • build confidence in public speaking	<b>[講義計画]</b> (syllabus) • Learning non-verbal skills - gestures - voice inflection - posture  • Learning speech composition - organization - content  • Group speech presentations			
<b>[成績評価の方法]</b> (evaluation) Evaluation is based on • class participation • speech performances	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> (Text) <u>Speaking of Speech</u> David Harrington - (author) Macmillan (publisher)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語ディスカッション		通 期	4単位	萩原直之
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本での漠然とした意味の片仮名英語 ディスカッション ではなく、本講では、西洋古典修辭学をふまえた「対話 (dialogue)」、「弁証 (dialectics)」、「詭弁 (sophism)」さらには西洋中世の大学正課の「討論 (disputatio)」, その伝統につながる米国の大学正課の「討論 (debate)」に一貫して流れる「是」か「非」かの二元論にもとづく西洋型ディスカッションを、「即 (double standard)」と「両非 (nihilism)」を専ぶことの多い日本型ディスカッション への反対命題として設定する。この基本認識の概括的解説を終えた後、その西洋的論理が英語の日常的発話と討論的発話に常套表現として現れる言語事実を、担当者の英国での収集や大杉邦三『会議英語』に拠って解説し、受講生がその常套表現に習熟することを要請する。前期の半ば過ぎからは、この討論用の英語知識の習得を前提に、今日の世界の諸問題を討論材料としてまとめた英語教材に即して、受講生ができる限り正しい英語で、しかも上述の討論の本義を十分に意識しながら、英語討論を実践できるように誘導する。受講生数によって変わるべき授業形態ではあるが、討論材料の今日的主題に促されて、受講生が、担当者の個人的指導まで受けながら、英語の文脈から中心趣旨を論理的に聞き取り、誤謬を恐れず英語を論理的に話すことに意欲を高めるよう、指導する。担当者は、近年まで日本英語討論協会および全日本学生英語連盟の常任審査委員として English debate などの審査員をしばしば務めた経験を、本講の受講生の指導に大いに活かすことを期している。	<b>[講義計画]</b> <前期> 1)西洋的討論の伝統, 2)西洋的認識型 (epistemic pattern)と日本の認識型 3)American debate 解説 (Jim Hanson, NTC's Dictionary of Debate から), 4)American debate 解説 (担当者の資料から), 5)speech と conversation, 6)討論的発話での常套表現 (担当者の英国での収集から), 7)討論的発話での常套表現 (大杉邦三, 『会議英語』から) i)論点の強調表現, ii)質問表現, iii)返事表現, iv)肯定・否定・同意・不賛成・反論・要求・提案など, 8)討論材料による英語討論への誘導, 9)討論材料 Japan and the World : The Past and Present の討論の前提としての読解, 10)同第1章: The USA: Contradictions の討論, 第2章: Europe: Popular Images の討論, 12)第3章: Japan: New Cliches の討論, 13)討論材料-Japan and the World: The Future の討論の前提としての読解, 14)同第1章: The USA: From Kennedy to Clinton の討論, 15)上記 1),2),3),4)および 6),7) についての筆記試験 <後期> 1)前期 13)第2章: Europe: A Changing World の討論, 2)第3章: An International Role の討論, 3)討論材料-Social Issuesの討論の前提としての読解, 4)同第1章: Racism の討論, 5)第2章: Feminism の討論, 6)第3章: AIDS の討論, 7)討論材料-Culture の討論の前提としての読解, 8)同第1章: High and Low の討論, 9)第2章: Television の討論, 10)第3章: Heroes and Heroines の討論, 11)討論材料-The Cityの討論の前提としての読解, 12)同第1章: The City in History の討論, 13)第2章: The City and Modern Communications の討論, 14)第3章: Tokyo の討論, 15)上記のうち任意の討論材料の任意の章の内容をめぐる, 3人の話者による英語討論の記録を回答として求める筆記試験			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期は、期末の筆記試験で討論の歴史的理論的認識および英語の討論的発話での常套表現の知識を判定し、後期は、英語討論記録の作成を回答とする筆記試験により、英語討論の能力を判定する。	<b>[参考文献]</b> 1)担当者が配布する教授資料 2)NTC's Dictionary of DEBATE, National Textbook Company, Macmillan Language House 3)大杉邦三, 『会議英語-国際会議-英語討論のための表現事典』(大修館書店) 4)Lucy Solo, Japan: Women's Paradise, Macmillan Language House			
<b>[教科書]</b> Asturo Silva, Japan and the World--Issues in Contemporary Society (金星堂)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語翻訳法 (旧応用英語特講Ⅱ-英語翻訳法)		通 期	4単位	柳 父 章
<b>[講義概要・学習目標]</b> 教科書の文章の日本語訳を、参加する学生と共に、宿題としてやること。毎週先生に提出すること。 次の週、模範の訳文、問題点、それから一般の翻訳についてなどの話をやる。 教科書以外の、新聞、雑誌などから英文をさがして翻訳することもある。	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 毎週提出する翻訳による。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> Joan McConnell, <u>The Fascination of Europe</u> 坂本みづみ訳 (2012/10の文化と歴史) 成美堂 1998年 1,600円				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英・日語通訳法 (旧応用英語特講Ⅰ－英語表現法)		通 期	4 単位	萩 原 直 之
<b>[講義概要・学習目標]</b> 詳しくは英→日語逐次・同時通訳法だが、それに先立つ英→日語特務通訳の体験が、この学習を概念的な理解に留めず実技訓練につなげる。受講生は、英語読解での速読と句単位の日本語の英語への瞬間的変換の能力を求められる。だが、簡単な日常的発話でも、英日語を脳裏で日英語に変換すると、メモ取りを交えて日英語に変換し他人に伝えるのとでは、生理的・心理的・知的に大きく異なる。そこで、担当者が本邦初に公表した日本人の英→日逐次・同時通訳作業のメカニズムの分析が紹介される。さらに、英→日逐次通訳作業でのメモ取り技法・情報単位の単純化・英→日同時通訳作業でのtime lag・通訳者の耳と口の中間での時間差ゆえに内容が違ふ原発言と訳出の発声との交錯、が解説される。担当者は、英語学や異文化間伝達論を講ずる傍ら日本の代表的通訳者養成機関INTER OSAKAの訓練生あるいは実技指導者でもあった生の体験をふまえて、将来の本格的独習や通訳者志望を思う受講生に、理論にもとづくきめ細かな実技指導を行う用意がある。	<b>[講義計画]</b> <前期>先に理論面を、後に実技面を記す。 1)世界と日本と英→日語通訳、2)英→日語通訳者の今昔と今後、3)日本人の英語読解：英→日逐次通訳・英→日同時通訳作業の生理的・心理的・知的メカニズムの分析、4)同前、5)同前、6)同前、7)同前、8)英→日語逐次・同時通訳作業と情報単位の単純化、9)同前(特に前置詞(句)の場合を中心に)、10)同前(特に(句)動詞の場合を中心に)、11)逐次通訳作業の概要、12)逐次通訳メモ取りの一般的技法、13)逐次通訳メモ取りの個人的技法の開発、14)同上、15)筆記試験 1)英単語50・英短文10の連続follow練習、2)同前-特にtime lag2~3秒を厳守して、3)英単語50の連続和訳練習、4)同前-特にtime lag2秒を厳守して、5)日単語30の連続英訳練習、6)同前-特にtime lag 2秒を厳守して、7)英短文20の連続和訳練習(英→日語特務通訳練習を含む)、8)同前、9)日短文20の連続英訳練習(日→英語特務通訳練習を含む)、10)同前、11)scriptを用いての「頭ごなし式」英文和訳練習、12)同前、13)同前、14)逐次通訳メモ取りの一般的技法の実用練習、15)逐次通訳メモ取りの個人的技法の実用練習 <後期>先に理論面を、後に実技面を記す。 1)逐次通訳メモ取りの技法をめぐる受講生の情報交換、2)同前(担当者の指導を含む)、3)同前、(以下、全時間を実技練習に用いる。) 1)原発言の基調確保の練習、2)同前、3)逐次通訳メモ取りと訳出の練習、4).5).6).7).8).9).10)同前、11).12).13)予習済みの英文scriptによる英→日語同時通訳作業練習、14)総括および(筆記による)逐次通訳作業試験			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期については、期末の筆記試験で理論的認識と実技基礎能力を判定し、後期については、期末の筆記試験で逐次通訳作業能力を判定する。なお、成績評価には出席状況を重視する。	<b>[参考文献]</b> 日本通訳協会(編)『通訳訓練テープ講座(全10巻)』 国弘正雄・西山千・金山直夫(編)『通訳・英会話から同時通訳まで』(日本放送出版協会) 日本外国語専門学校・大阪外国語専門学校(編)『英語通訳ガイド試験一問と解説』(研究社)の他、担当者の論文			
<b>[教科書]</b> 日本通訳協会 松本兼太郎・向 謙治郎(編)『通訳教本「英語通訳への道」』(大修館書店)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
<b>[講義概要・学習目標]</b> 神と悪魔、信仰と不信、希望と絶望、この対極の間でバランスをとうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。常に聖書に言及しつつ講義を進める。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証することにある。講義を通してキリスト教への理解を深めると共に、優れた文学作品が与えてくれる喜び、恐怖、そして感動を体験して欲しい。常に聖書に言及しつつ講義を進める。講義はできるだけ原作品に密着して行うので指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。全講義の詳細なアウトライン(学習ガイド付き)を2回目までに用意しておくのでそれに従って予習するように。	<b>[講義計画]</b> 前期 1-2 Wordsworth "We are Seven" 永遠の命と無垢 Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 3-4 Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 5 Milton "On His Blindness" 絶望から希望の信仰へ Frost "Stopping by Woods on a Snowy Evening" 現実と超現実の接点 6-11 O'Connor "A Goodman Is Hard to Find" 信じたくても信じられない男 後期 1-4 Melville Moby-Dick 不信の男が語るキリストになりそこなった男の話 5-9 Hawthorne "The Minister's Black Veil" 罪の存在としての人間 10 Christmas carols, English and American 信仰の喜び 11 "The Minister's Black Veil" まとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期 小論文 後期 期末試験 年間を通じて平常の努力点				
<b>[教科書]</b> 谷本泰三(著)『講義アウトライン』				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
<b>【講義概要・学習目標】</b> 文学とは何かという問いに対してひとつの解答を出すために、作品をこまかく、正確に、かつ想像力豊かに読む方法を講義する。文学とは言語による表現に依存しながらも言語では表現できないものを伝えようとするものである。この決定的な逆説のなかで読む行為をしなければならない読者には、必然的に読む技術が求められる。すぐれた文学作品とは個々の真理を表現するために最良の方法を選択したものだとすれば、表現されていないものを求めて言語表現を詳細に検討することが真理探究への道である。作者の選んだ言語表現を前にして、沈黙の言葉を読み取る方法を伝える。 この授業の目的は、文学作品をどのように読むべきか、その方法を各自で発見することである。	<b>【講義計画】</b> 第1回目の授業で詳しいシラバス等を配布します。			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートによる。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 第1回目の授業で指示します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英米の童話と童謡 (旧英語英米文学特講－英米の童話と童謡)		通 期	4 単位	藤 森 かよ子
<b>【講義概要・学習目標】</b> 講義目的：推理小説にも映画にも新聞の記事にもポップ・ソングにも、童話や童謡のもじりやパロディが使われている。それを知らずにいるのは悔しい。子どもに返るのは無理だけれど、英米の子どもぶりっして、英米の童話や童謡に触れてみる。童話や童謡は英米文学の源泉でもある。童話や童謡は、どんなメッセージを発しているかも考えてみる。 講義内容：毎回の授業の半分は、マザー・グース（全部で約800の英国童謡の総称）のうち、70編を聴いて分析して覚える。唄ってみる。「とおりゃんせ」みたいな変な気味の悪い歌もあるし、いろいろ。 あと半分は、オスカー・ワイルド(Oscar Wilde)の童話を5編読む。心が「オバサン」や「オジサン」の者は愉しめないだろうから、該当者は受講しないこと。子どもに聴かせるつもりで朗読もしてみよう。	<b>【講義計画】</b> 前期第1回：なぜ童話と童謡か マザー・グースとオスカー・ワイルドについて 2回から6回まで：The Happy Prince and Other Talesを読む Nursery Rhymes Part1---Part3 7回から11回まで：The Happy Prince and Other Talesを読む Nursery Rhymes Part4---Part6 最終回：まとめ・試験 後期第1回：前期末試験返却 マザー・グースとオスカー・ワイルドについて再び 2回から6回まで：The Happy Prince and Other Talesを読む Nursery Rhymes Part7---Part9 7回から11回まで：The Happy Prince and Other Talesを読む Nursery Rhymes Part10---Part13 最終回：まとめ・試験			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席／受講態度：50%（欠席9回で失格） 試験：50%	<b>【参考文献】</b> 平野敬一著『マザー・グースの唄：イギリスの伝承童謡』（中公新書・1972） 矢野文男著『知っておきたいマザー・グース』（三友社出版・1981） 北原白秋訳『まざあ・ぐうす』（角川文庫・1976） 谷川俊太郎訳『マザー・グース』全4巻（講談社文庫・1981） Iona and Peter Opie ed., The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes(Oxford UP,1997)			
<b>【教科書】</b> 安藤幸江注：『Nursery Rhymes ビデオで楽しむマザー・グース』（北星堂） Oscar Wilde, The Happy Prince and Other Tales（旺史社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ラテン語		通 期	4 単位	GonzalesDario
<b>〔講義概要・学習目標〕</b> [学習目標] ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。 [講義概要] ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、二千年余りの歳月により今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や文化の歴史の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙が、ラテン語から影響していることを知り、母なる言語の山縁が自然に理解できる 講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知ることによりラテン語の歴史の概要についても触れる。又、ラテン語にできるだけ親しんでもらう為に、視聴覚教材を活用するつもりである。 授業には、ラテン語の小辞典を携帯する。	<b>〔講義計画〕</b> 〈前期〉1. ラテン語の起源と歴史 2. 発音と読み方 3. 基礎的な文法事項 〈後期〉1. ラテン語からの派生語 スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等 2. 身近かなラテン語 音楽と雑誌 3. 簡単な日常会話			
<b>〔成績評価の方法〕</b> 小テスト、出席日数、レポートの総合評価	<b>〔参考文献〕</b> 松本悦治 (著)「ラテン語入門」(駿河台出版社)			
<b>〔教科書〕</b> プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マスコミの英語		通 期	4 単位	大 橋 襄
<b>〔講義概要・学習目標〕</b> マスコミの英語は、世の中の激しい動きを即座に伝えていくものだけに、生き生きと躍動しています。独特な言い回しや表現を用い、時には文法や構文のルールも逸脱します。この授業では、最新の英字新聞・雑誌、放送などを教材として、ホットなニュースを読んだり、聴いたりしながら、興味を持ちつつ学んでいきたいと思えます。もちろん基本的なことも、教科書によって学んでいきます。しかし、忘れてならないのは、英語の知識と同時に、ニュースで扱われる問題の本質や背景などについての予備知識、そして豊富なボキャブラリー（英語とともに日本語も）です。それらを身につけて、「マスコミの英語」にどンドンに接していけば、次第に英字新聞・雑誌・放送などへの拒絶感がなくなり、親しみを感じるようになるでしょう。それがこの授業の目的です。	<b>〔講義計画〕</b> 〈前期〉 日本や海外の英字新聞・雑誌・放送・通信社などの概説からはじめ、その内容（ニュース、論説、解説など）、構成などを学び、またそれらに用いられる特有の語法、文体、表現などを学習します。そのあと、教科書と並行しつつ、最新の新聞・雑誌・放送など、“生の”教材に触れながら、授業を進めていきます。また問題への理解を助け、深めるため、時事知識も同時に学びます。 〈後期〉 前期と同様、随時、最新の新聞などを教材にしつつ、授業を続けます。			
<b>〔成績評価の方法〕</b> 学年末の試験を最終評価とします。 また、授業時の随時のテスト、レポートのほか、出席状況や学習態度も評価に加えます。	<b>〔参考文献〕</b>			
<b>〔教科書〕</b> 木塚晴夫 (著) NEWS FLASH ROUNDUP '98 (Macmillan Languagehouse)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（日本文化） （旧日本文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	松 浦 玲
〔講義概要・学習目標〕  大阪道頓堀に「松竹座」が新築されたのを機に、東西歌舞伎の交流が進み共演・競演も増えてきた。徳川時代の大坂南の歓楽街にまで遡りながら、日本文化に於ける大阪の位置、京都との共通性や差異などを見る。		〔講義計画〕  視聴覚で所蔵する芝居のビデオを大量に見ることから始める。映像で舞台上の演技についての「実感」が掴めたところで、その舞台を成立させている背景に説き及んでいきたい。		
〔成績評価の方法〕  レポート。		〔参考文献〕  講義の進行に従って必要なものを挙げる。		
〔教科書〕  使わない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（韓国・朝鮮文化） （旧韓国・朝鮮文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	徳成外志子
〔講義概要・学習目標〕 朝鮮半島の社会と人々を縦（歴史）と横（現在）から理解する。 朝鮮半島の国と人々は日本に最も近い隣国、隣人であるが、韓国・朝鮮、朝鮮人と日本及び日本人は、似て非なるところが多い。例えば、同じく儒教と言っても、日本では忠を重視するのに対して朝鮮では孝が重視され、日本で士は武士を指すが、朝鮮では儒者を意味した。親族制度も、日本は家制度であるが朝鮮半島は宗族制度であり、朝鮮の宗族制度は中国の宗族制度とも若干異なり身分的性格が加味されている。同じく四季があると言っても、気候風土はやはり違いがあり、従って衣食住などの生活様式にも特色が生じている。歴史的にも、朝鮮は中国大陸と陸続きで大陸勢力の圧迫・影響をまろに受けたのに対し、日本は海を隔てていて相対的に独自性を保つことができた。朝鮮半島は日本や中国とは異なる独自の文化と歴史を持ち、その異なるところがおもしろい。 ところで日本では教育の中でも朝鮮半島の歴史や文化については殆ど教えられず、せいぜい断片的な日朝関係の理解にとどまっている。日本的な価値観、尺度にのみ依拠して接すると、誤解、摩擦のもととなる。一方韓国・朝鮮の日本理解はどうだったのだろうか。朝鮮と日本の相互認識についても歴史的に検討してみたい。授業はビデオなどの視聴覚教材を大いに活用し、朝鮮文化に親しめるようにしたい。	〔講義計画〕 前期：現在の朝鮮半島の社会と文化を幅広く概観し、その特色を知る。 1. 地理、気候、風土 2. 国号考 3. 言葉と文字 4. 家族・親族制度と姓氏 5. 人間関係 6. 生活文化 7. 宗教と信仰 8. 芸能、芸術、文化  後期：朝鮮半島の歴史の概略を知り、日朝の相互関係・相互認識を歴史的に考察する。 1. 古代の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 2. 中世の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 3. 近代の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識 4. 解放後（1945年以後）の朝鮮史と日朝関係、日朝の相互認識			
〔成績評価の方法〕 出席及び普段の授業課題、学年末レポートを総合的に評価する。		〔参考文献〕 ・山本剛士編『新版 韓国入門』三省堂選書、1992。 ・金両其監修『（読んで旅する世界の歴史と文化）韓国』新潮社、1993。 ・朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史』三省堂、1995。 ・鄭大均『韓国のイメージ－戦後日本人の隣国観－』中公新書、1995。 ・上田正昭、姜在彦編『日本と朝鮮の二千年』大阪書籍、1985。 ・『朝鮮を知る事典』平凡社、1986。 その他、授業で適宜紹介する。		
〔教科書〕 伊藤亜人『（暮らしがわかるアジア読本）韓国』河出書房新社、1996。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（中国文化） （旧中国文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	Philip Billingsley
<b>[講義概要・学習目標]</b> 中国 ― 遠いと思えば上海までわずか 2 時間、近いと思えばビザなしでは行けない。行けば理解できないことばかりで、心を痛さぶられる。第一印象で反感を覚えても、時間が立つうち愛着が深まる。「共産主義国家」かと思えば、「資本主義国家」日本に負けず劣らずみんな金儲けに必死。60 年代に国家主席を引き倒すことまで政治の舞台上で活躍していた若者はいま、昼間は株の売買をし、夜はディスコで踊りまくる。「革命運動輸出」で恐れられていた中国共産党はいま、「愛国的カラオケソング」を強制する。謎の上にはまたなぞが重なる。だからこそ放っておけない国なのだ。 講義では、堅苦しい教壇からのお説教スタイルをなるべく避けるつもり。その代わり映画、音楽、漫画、テレビ番組などをフルに活用し、古来からの文化にも触れながらいまの中国の複雑な現実を理解してもらえよう努める。使用する言語は主に日本語だが、ときには母語である英語を披露することもありうる。 尚、「講義」とはいえ、受講生の積極的な参加（講義中の質問タイム、定期的なレポートや小テスト、そして出席）が要求されるからそのつもりで受講して下さい。目標は主に二つ。一つは 3 年次以後の専門演習に進むための基礎的知識と理解を与えること。もう一つはそのような理解を身につけて、「中国へ行ってみたい！」という気持ちになってもらうこと。	<b>[講義計画]</b>  未定			
<b>[成績評価の方法]</b>  レポート、小テスト、及び出席率	<b>[参考文献]</b>  授業中に配布する			
<b>[教科書]</b>  なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（東南アジア文化） （旧東南アジア文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	深 見 純 生
<b>[講義概要・学習目標]</b> 世界経済の成長センターともてはやされ、ちょっとつまずいた東南アジア。そういう時代だからこそ、経済 ― 投資、貿易、強い円、駐在員とその妻、成長と開発等々 ― だけでない東南アジアの姿を見ておく必要がある。そのために「地域研究」が有効である。この講義を通して、東南アジア地域研究のための基礎的な素養を身につけてほしい。 地域研究の大事な方法論のひとつは「現地調査」つまり現地社会に入って人々の暮らしと文化を観察することである。教室では不可能だが、せめてビデオでこれをやってみよう。ただしビデオは他人の目が見たもの、編集されたものであることに注意したい。 地域研究では「地域特性」の把握が大事である。つまりその地域を「地域」として成り立たせているもの、平たく言えばその地域の特徴の背景である。東南アジアではこれがけっこう難しい。キーワードは多様性、生態適応型、地域統合志向の出現といったところか。 なお、広く東南アジア全域を対象とするが、細かい点では私の専門との関係で、地域的にはインドネシア、学問的には歴史学に傾く可能性がある。	<b>[講義計画]</b>  1. 世界のなかの東南アジア アジアとヨーロッパ/世界のなかの東南アジア 2. 東南アジアの多様性の現状と背景 地理/10 国の現況/言語・民族/宗教/歴史 3. 東南アジアという地域の成立論理 国際政治の論理/文化的視点 4. 東南アジアを括る論理を求めて 生態学（島の熱帯）/社会学（小人口社会）/ 文化学（基層文化と外来文化）/政治学（権力の強さと弱さ）			
<b>[成績評価の方法]</b>  時々の小レポートと期末試験の成績を総合する。	<b>[参考文献]</b>  京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997 〔桃園R292.3〕 綾部恒雄・石井米雄編『もっと知りたいインドネシア』弘文堂 1995〔桃園ST292.4〕 上智大学アジア文化研究所編『入門東南アジア研究』めこん 1992〔桃園A223〕 土屋健治・加藤剛・深見純生編『インドネシアの事典』同朋舎 1991〔桃園R292.4〕 その他時々教室で指示する。			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（アメリカ文化） （旧アメリカ文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	大 井 映 史
<b>〔講義概要・学習目標〕</b>  アメリカとは、様々な思いから祖国を捨てても自由を得たいと欲する人々にとって、夢を追う最後の選択肢だった。“Give me liberty or give me death!”しかし、アメリカに渡った者がただちにアメリカ人になるというわけもなく、現実には世界中の難民が乗りあわせた船を思わせる、混沌の様相を呈するモザイク世界が広がっている。皮肉にも、民族固有の伝統に頼ることなしには、彼らは己のアイデンティティを見失う不安に駆られもするのである。ルネサンスから宗教改革を経て、一握りの血縁者が群衆を支配する国家を捨て、個我に目覚めた人間たちは自己実現に向かったのだが、さて、基本的人権を謳う世界の実現など、見果てぬ夢に過ぎなかったか。アメリカを論じることは、民主主義の理想が規定する世界を論じることであり、また人間の個としての可能性と限界を論じることもある。		<b>〔講義計画〕</b>  前期 1 アメリカン・コーヒーと建国の理想：自由、平等、幸福の追求 2 ヨーロッパ人はなぜアメリカを夢見たのだろうか 3 ユートピア思想概観 4 ルネサンスと宗教改革 5 大航海 6 「神は愛である」と「はじめに言葉ありき」 7 アメリカン・ヒーローの理想と現実 8 アメリカン・ルネサンスの作家たち 9 南北戦争 10 移民  後期 1 上品な伝統と人種差別 2 ジャズ・エイジ 3 F. ルーズベルトのアメリカ 4 「赤狩り」と大統領暗殺 5 ヴェトナム戦争と公民権運動 6 女性運動とジェンダーの問題 7 カミング・アウト&異文化間コミュニケーション 8 ユートピア小説が描く近未来 9 国境の喪失 10 新世紀の展望		
<b>〔成績評価の方法〕</b>  年度末締切りの小論文：60% 映画などの作品鑑賞レポート：20% クイズ：20% 討論への参加：ボーナス・ポイント		<b>〔参考文献〕</b>  開講前週にリストを配布する。		
<b>〔教科書〕</b>  講義担当者が配布するプリントのほか、各自の研究課題に即した文献その他、自分で収集した資料の中から担当者と相談して「教科書」を決めること。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（イギリス文化） （旧イギリス文化研究Ⅰ）		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
<b>〔講義概要・学習目標〕</b>  現代の＜英国＞は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドからなる「連合王国」であり、政治経済的・文化的に多様な要素を内包している。宗教的にも異なる伝統が共存している。王室の君臨する国であると同時に、議会制民主主義の発祥の地でもある。人々の気質は内向的でありながら、帝国主義植民地支配を長期にわたって行った。近代資本主義の誕生の地とも言われる。イギリス文化を単純に語ることは許されない。 本講義では前期において、19世紀以降のイギリスを特徴づける最も重要な思想家の一人である J. S. Mill (1806-73) の著作に直接触れ、彼を座標軸としてこの多様なイギリス文化の諸側面を検討する。後期は、学生による研究発表を中心とする。		<b>〔講義計画〕</b>  ミルの視点を通し、イギリス思想の特徴を把握すると同時に、イギリス近代史の様々な出来事と思想との関連を検証する。特に以下の項目に関心を持つ イギリス宗教改革・重商主義・植民地支配 階級社会・経験論・功利主義 前期後半に、類似する関心を持つ受講者でグループを作り作業分担をした上で、休暇中に自主研究をする。後期にグループごとの研究発表をし、学年末にグループごとの研究報告を提出する。		
<b>〔成績評価の方法〕</b>  前期提出の各自によるブックレ・ポート、ならびに後期の各グループ自主研究発表と報告書。		<b>〔参考文献〕</b>  随時指示する。		
<b>〔教科書〕</b>  J. S. ミル (著) 『ベンサムとコウルリッジ』、みすず書房 1990				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（フランス文化） （旧フランス文化研究）		通 期	4単位	ロー・ヤマサキ・アニー
[講義概要・学習目標] フランス文化とフランス人：現状と将来。 フランス文化の本質を今日的な言者問題を 通じて紹介するに分類せず概説する。特に E.C. 統合時代を前にしてフランス社会および フランス人の価値判断と行動反応の様々 なものを、生きた問題としてとりあげたい。	[講義計画] 第一回目の講義中に「言説」する。			
[成績評価の方法] 毎回講義中に行う小テスト(まとめと意見)と出席 態度で評価する。	[参考文献] 必要に応じて指示する。			
[教科書] 必要に応じてプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化概論	01	通 期	4単位	柳 父 章
	02	通 期	4単位	
[講義概要・学習目標] 文化人類学の成果や言語文化理解、その文学 の作品も扱った比較文化概論。 将来貿易など異文化と係わり合う職業に就く人 にも有益なよう授業を構う。	[講義計画] 〈前期〉比較文化論的見地、日本文化論 〈後期〉東洋文化、西洋文化を中心として考える。			
[成績評価の方法] 出席は必ずしも、出席の割合を聞いてテストをできる だろう。 前期、後期末のテストあり。	[参考文献] 毎回の授業中に紹介する。			
[教科書] 柳父章著『一語の辞典 文化』三省堂 1000円				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	山 本 雅 代
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>「言語」と言えば、学生諸君の多くは国語や英語などの学習を思い起こすのではないかと思うが、「言語学」とは、そうした個別言語の能力習得・伸長を図ることを目的とするものではない。「言語学」とは「『言語とは何か』とか『言語はどのように働くか』という根元的な問いに答えようとする学問である」(エイチソン, 1995: 2-3)。このとてつもない問いに挑戦するための第一歩を踏み出さんとする学生諸君のために開講されているのが本講義である。なお本講義は概論のため、特定の領域を深く掘り下げるのではなく、言語についての全般的な基礎知識の習得を目標とするものである。</p>	<b>[講義計画]</b> <p>【前期】言語そのものの分析(単位や構造)を中心とした講義  《テーマ》  言語学とは何か/言語の特性/動物と人間言語/音声学/音韻論/形態論/単語/統語論/意味論/</p> <p>【後期】言語とその周辺領域の関連を中心とした講義  《テーマ》  語用論/言語の使用/言語と社会/言語と心・脳/言語とコンピュータ/言語の変化/言語の比較/手話/言語相対性・言語普遍性/</p>			
<b>[成績評価の方法]</b> <p>1) 出席、レポート等の提出を最低条件とし、2) 質問、意見の表明等授業への積極的参加の姿勢と、3) 定期試験の結果をもとに総合的に判断する</p>	<b>[参考文献]</b> <p>風間喜代三ほか著『言語学』(東京大学出版会)  小泉保著『日本語教師のための言語学入門』(大修館書店)  中島平三・外池滋生編著『言語学への招待』(大修館書店)</p>			
<b>[教科書]</b> <p>ジーン・エイチソン著(田中春美ほか訳)  『入門言語学(改訂新版)』(金星堂)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論	01	通 期	4 単位	井 本 英 一
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>ユーラシアの神話・伝説・談話の発生について考察する。生と死の境界、夢の世界と現実の世界の境界、神の世界と人間の世界の表象を分析する。これによって、物語の深層構造をさぐる。</p>	<b>[講義計画]</b> <p>地域文化学と比較文化学、ニギハミコトとヤマト、アジア文化の中のアマトタケル、母子神としての神功皇后と天照神皇、大國主神とユセフ、臨死体験と文学、山の信仰、山と異界-熊野におもむ、棄死譚話の起源、死と救済、トテムと始祖伝説、味噌、買川橋とめぐりて、夢中放尿の譚話、夢と覚醒、言語接触と文化伝播、アマゾンと女子軍、旅する聖母、片月の譚話。</p>			
<b>[成績評価の方法]</b> <p>学年末の筆記試験の得点によって評価する。</p>	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> <p>井本英一 『夢の神話学』法政大学出版局</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
地域文化概論	02	通 期	4 単位	井 本 英 一
<b>[講義概要・学習目標]</b> エーラレアの諸文化に何れも死と再生の説話、伝承・儀礼とヒトあけ、そこに見られる信仰と習俗を比較対照し、それぞれの地域文化の深層にある死生観・世帯観の構造をさぐる。	<b>[講義計画]</b> 地域文化学と比較文化学、輪廻の前身、1314の物語、七夕の物語、羽衣説話、みくろの意味、十二夜と正月、正月のルーツを探る、お水取りと太子忌、お水取りと古代オリエント、サダ緑と寒食節、西北の方位と民俗、鞍作と眩人、中宵の物語、盂蘭盆の源流、法隆寺伝来の白檀と梅檀。			
<b>[成績評価の方法]</b> 学年末の筆記試験の得点によって評価する。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b> 井本英一『輪廻の物語』法政大学出版局				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史	01	通 期	4 単位	横 井 清
	02	通 期	4 単位	
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本の文化について歴史的に通観する。総じては、日本文化史上の重要事象について、 <u>使用教科書の記述によりながら</u> 、初歩的・基礎的な「知識」を身に付けるようにいざないたい。その上で、本学が教育理念の根本に置く「国際的な視野」に立って日本文化を見直してゆくための手掛かりを体得させたい。	<b>[講義計画]</b> 前期においては原始・古代～中世の文化史を追い、 後期には近世から近代を対象として講義する。			
<b>[成績評価の方法]</b> 通年筆記試験による。	<b>[参考文献]</b> 必要に応じて授業の中で紹介する。			
<b>[教科書]</b> 家永三郎著『日本文化史【第二版】』（岩波新書）				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>[講義概要・学習目標]</b> 次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ほ』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお)+型(かた)=おおがた(連濁あり。×おおがた)なのに、何故、大(おお)+風(かぜ)=おおかぜ(連濁なし。×おおがぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」 答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起きているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)言語学の視点:ヒトという生物種に発生したコトバとしての日本語の普遍的特徴の探求。(2)教育学の視点:日本語の非母語者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点:「自分とは何者か」という問を考えるための手がかり。	<b>[講義計画]</b> <前期> 重要事項の解説と練習問題  <後期> 重要事項の解説と練習問題			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席・筆記試験	<b>[参考文献]</b> 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)			
<b>[教科書]</b> 上山あゆみ『はじめての人の言語学-ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
<b>[講義概要・学習目標]</b> 異なる出自文化を持つ者とのコミュニケーションや、異文化同士がコミュニケーションを行う場合に発生する諸問題について講じる。 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に保たれる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。さて諸君は自文化を越えられるだろうか。	<b>[講義計画]</b> <前期> 1 はじめに:異文化間コミュニケーション論とは 2 「文化」とは何か(所相として):静態と動態 3 自文化中心主義と文化相対主義。相対主義批判。 4 「文化」とは何か:再考。定義。情報伝達理論。 5 コミュニケーションの志向性と型。 6 コミュニケーションの動因と文化型。 7 文化フィルターとしてのコミュニケーション型 8 言語と文化:サピア・ウォーフの仮説を中心に 9 コミュニケーション能力と言語能力 10 非言語コミュニケーション(1) 11 非言語コミュニケーション(2) 12 コミュニケーションの文化型:片立文化と両立文化  <後期> 13 日本のコミュニケーション(1):両立型特性 14 日本のコミュニケーション(2):宗教史より 15 日本のコミュニケーション(3):宗教的影響 16 日本のコミュニケーション(4):時空感覚 17 日本のコミュニケーション(5):土着と外来 18 日本のコミュニケーション(6):否定と肯定 19 日本のコミュニケーション(7):「理解」法の比較 20 英米人のコミュニケーション(1):国民性の形成 21 英米人のコミュニケーション(2):特殊性と特性 22 異文化間コミュニケーション(1):循環の法則 23 異文化間コミュニケーション(2):異なる価値観 24 まとめ:定量的方法と定性的方法:特徴と限界 25 予備日、または試験			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期末試験、学年末試験および出席点に代えて不定期に小試験を行う。	<b>[参考文献]</b> 橋本満弘・石井 敏(編)遠山 淳 他(共著)『日本人のコミュニケーション』(桐原書店、1993) 吉田 暁(編)・石井 敏・岡部朋一・久米昭元(共著)『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣、1996) 祖父江孝男(著)『文化人類学入門 増補改訂版』(中公新書、1992) 他は、授業中に発表する。			
<b>[教科書]</b> 久米・遠山 他(編・著)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣、1997)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文明論		通 期	4 単位	片 倉 穰
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>「日本と外国文明 — その比較文明論的考察」  この講義では、日本の歴史的発展過程における外国諸文明との接触・摩擦および受容などの諸問題を考察する。古代から現代までの各時代において、中国・インドや西洋諸文明との交流や継受、あるいはその拒絶の態様を具体的に検討し、日本人の文明観の性格と特徴を明らかにしたい。</p> <p>中国・インドの文明と西洋の文明などに対する日本人の受け取り方や対応の仕方に、どのような相違点があり、なぜそういう相違点が現われるのであろうか。</p>	<b>[講義計画]</b> (通年) (1) はじめに — 本講義の目的 (2) 文明について — 文明との出会い (3) 中国文明の受容と古代日本 (4) 文明交流と海 — 漂流体験など (5) 中世における文明交流の諸相 — 「倭寇」その他 (6) 近世日本と西洋文明 — 「南蛮文化」の渡来、「鎖国」と西洋文明の緊張関係 (7) 海をこえた思想 (8) 近代初期日本人の西洋文明観 — 岩倉使節団、福沢諭吉 (9) 近代における日本とアジア — 比較文明論の立場から (10) おわりに — まとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> 講義中に実施される小テスト（レポート）および期末試験等により評価する。	<b>[参考文献]</b> 穰 一雄編『西洋文明と東アジア』（平凡社、1971） 伊東俊太郎編『比較文明学を学ぶ人のために』（世界思想社、1997） 村井章介『海から見た戦国日本 — 列島史から世界史へ』〈ちくま新書〉（筑摩書房、1997）			
<b>[教科書]</b> とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	0 1	通 期	4 単位	野 尻 亘
<b>[講義概要・学習目標]</b> 地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。 地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系について、わかりやすく解説する。 従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。 テキストは欧米で最も定評のある本を用いる。 社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。	<b>[講義計画]</b> 〈前期〉1. 深検記・産物誌から近代地理学へ 地理と地誌の違い 2. 生態学的視点と地域システム フンボルト・リッター ラッツェル・ブラーシュ 3. コロロギーから「地域分化」の研究へ リヒトフォーフエン・マルテ・ハーツホーン 4. 地理学における例外主義批判と計量革命 5. 「地域」と「空間」の違い 流動を分析する視点グラヴィティモデル 6. 行動地理学とタイムジオグラフィー 〈後期〉7. 人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて 8. マルクス構造主義と都市研究 9. 立地論 ウェーバー 輸送費・労働費・集積の利益 10. 立地論 レッシュ 市場の均衡と立地条件 11. クリスタラーの中心地研究 12. ハフの商圏モデル 13. 地理学とは何だろうか			
<b>[成績評価の方法]</b> レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履修状況をみて決定する。	<b>[参考文献]</b> ディッケン・ロイド『地理と空間 下』古今書院 西川 治 『人文地理学入門』東大出版会			
<b>[教科書]</b> ディッケン・ロイド『立地と空間 上 経済地理の基礎理論』古今書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	02	通 期	4 単位	森 田 勝
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>地理学は様々な社会科学・自然科学との接点が多い特異な学問分野であるが、中でも人文地理学は最も顕著にそうした傾向が表れると同時に、広範な地理学諸分野の中核的位置に置かれる。そこで、まず人文地理学的位置付けを検討し、最近の諸研究者の研究動向や系譜に触れるとともに、自然地理学との関係を考察する。</p> <p>次いで具体的な研究事例として、農山漁村と都市について、現地調査に基づく人文地理学的観点から講義する。農山漁村では、富山県東砺波郡、島根県那賀郡などの調査例を中心に、今も人口流出が続く過疎地の状況を考察する。そして、これらが特異な自然環境・社会環境や歴史性をもたらすものでなく、全国各地に普遍的なものであることを追求したい。都市では、京都・大阪・神戸を中心に、発達史、都市化の状況分析、都市問題などを考察する。その際、折に触れ海外の諸都市の状況にも言及する。</p>	<p>(前期) 1～2 人文地理学の学問的位置付け、隣接諸科学との関連性 3～9 農山漁村の地理的定義と一般的状況 10～15 富山県・島根県の事例研究</p> <p>(後期) 16～17 都市の定義、その分類、都市化の一般的状況 18～27 京都・大阪・神戸及び周辺地域の事例研究 28～30 都市問題の整理。総括</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
年度末の試験結果と出席状況によって評価する。	その都度紹介する。			
[教科書]				
プリント資料を使用する。				

<L生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文化人類学	02	通 期	4 単位	小 池 誠
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>文化人類学は、自分たちとは異なる文化を調査・研究し、この世界に住む様々な人々の文化的多様性を明らかにしてきた。この授業では、文化人類学独自のアプローチと方法論を通して異文化にたいする理解を深めることを目的とする。様々な民族の多様性だけでなく、多様性を通してあらわれてくる人類としての普遍性もみていきたい。私たちの常識とはまったく異なる習慣や社会のあり方をたんに珍しいものとか、遅れたものと見なすのではなく、それぞれに独自の価値を見いだす文化人類学の視点を理解してもらいたい。また、今日重要な課題となっている多文化社会について、より身近な問題として考えてもらいたい。受講者の関心と理解を深めるため、できるかぎりビデオなどの視聴覚教材を利用する予定である。</p>	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文化人類学とは何か?</li> <li>2 生物としてのヒト (ヒトはどのようにしてヒトになったのか)</li> <li>3 人類の文化と言語 (文化って何、言語って何?)</li> <li>4 家族と親族の多様性 (私たちにとって家族とは、親族とは何か、そして異文化では)</li> </ol> <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 政治と経済 (どうやって人は力をもつか、豊かになるとはどういうことか)</li> <li>2 国家と民族 (民族はなぜ憎み合うのか、多文化主義とは何か)</li> <li>3 宗教と儀礼 (人は何を信じ、何を願うのか)</li> </ol>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
年度末試験の成績を基本にして評価する。ただし、出席状況、および夏休みの課題レポートと必要に応じて提出を求め小レポートの成績も加味する。	講義のなかで必要に応じて紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>[講義概要・学習目標]</b> 応用言語学とは何かについて考えたあと、 1. 言語問題の学（言語障害、識字、言語交替など） 2. 外国語教育学（教授法、教材・教具論、評価論） 3. 学際的言語学（言語学と隣接科学） 4. 言語と専門職の研究（通訳・翻訳、言語治療など） の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。 この科目を履修する過程で次第に身近な言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。	<b>[講義計画]</b> < 前期 > 第1週～第2週： 序論・応用言語学とは何か 第3週～第7週： 言語問題の学 第4週～第13週： 外国語教育学  < 後期 > 第1週～第7週： 学際的言語学 第8週～第12週： ことばと専門職 第13週： まとめと復習			
<b>[成績評価の方法]</b> レポートと年度末試験の結果を勘案して判定する。	<b>[参考文献]</b> Richards, Jack et al. <u>Dictionary of Language Teaching &amp; Applied Linguistics</u> . Longman.			
<b>[教科書]</b> なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（対照言語学）		通 期	4 単位	梅 田 礼 子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 音声・音韻、文法、語彙などさまざまな観点からいくつかの言語を比較検討し、言語の本質を考える。 講義は教科書を中心に、受講者からの意見・疑問・発見などを取り上げ、さらに深く考える場にしてゆきたい。積極的な参加を期待します。	<b>[講義計画]</b> 前期 1. 対照言語学とは 2. 音声・音韻 3. 文法 後期 4. 表現 5. 語彙 6. 言語行動			
<b>[成績評価の方法]</b> 授業への参加、カードによる加点、定期試験(前期・後期各1回)	<b>[参考文献]</b> 『日英語対照による英語学概論』 西光義弘 編集 窪菌・影山ほか 1997 ころしお出版 など			
<b>[教科書]</b> 『対照言語学』 石綿敏雄・高田誠 桜楓社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化特講 (日本在住英国人中国へ行く)		通 期	4 単位	Philip Billingsley
<b>[講義概要・学習目標]</b> 昨年度は研修のため上海のアパートで過ごした。いつの間にか、7階の窓から地平線に見えるクレーンを数えながら眺めている習慣が身についたが、そうやって現代都市としての発展に感心していると時々不意に近所の伝統的結婚祝いの爆竹の音に驚かされたりもした。「上海の銀座」といわれる淮海路を歩いていると大阪の若者となんら変わらないハイ・カラなカップルを見るが、田舎の方ではいまだに「人販」（人間、主には女子供の売買）は当たり前と考えられている。9年前に天安門広場で政府と立ち向かった学生はいま「改革開放」時代の経済政策を利用し、その政府に背を向け株の売買に必死。「社会主義文明」が進められる中、夕方になると南京東路の和平飯店の近くでは「上海レイディーは如何？」の囁き声が連発される。なんとなく日本に「近い」というイメージの中国なのなら、むしろ違いに驚いて帰ってくる人が多い。 矛盾や謎が重なり合う中国だが、講義の主な目標は（日本と中国の比較も含めて）様々な固定概念を見抜くこと。使用する言語は英語だが、どの学生も頑張れば聞き取れるようありとあらゆる工夫はするので、安心して受講して下さい。しかし、どの学生も毎回出席する必要があり、提出物も定期的に要求される。	<b>[講義計画]</b>  未定			
<b>[成績評価の方法]</b>  レポート、小テスト、及び出席率	<b>[参考文献]</b>  授業中に配布する			
<b>[教科書]</b>  なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		通 期	4 単位	原山 煌
<b>[講義概要・学習目標]</b> 気候は酷暑から炎暑まで、生業も遊牧、漁撈、そして農耕。一口にアジアと言っても実に多様な表情がそこにはある。本講義では、アジアの多様な表情を概括的に、しかし確実に把握し、そののちいわば各論として、いま世界を揺るがせている民族問題、そして動物文化史という2つの観点からこの地域の諸問題にアプローチしてみたい。 巨大な多民族複合国家としての中国、ロシア世界における民族問題の比較検討、現在まで続く各ケースの紹介をおこなう。 遊牧の民の間における動物（家畜とそれ外の動物）、野生の世界と人間の手の加わった地域との対照など、多角的にこの問題に迫ることとする。	<b>[講義計画]</b> 1. アジア世界の概括的理解 2. 中国周辺における民族問題—その沿革と現状— 3. 動物文化史—野生の世界と人工の世界— 3. 家畜とは 4. アジアの動物観念—ヒトにとって動物とはなにか—			
<b>[成績評価の方法]</b> 随時課すレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍する）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b> 授業中に随時紹介する。			
<b>[教科書]</b> 松田壽男『アジアの歴史—東西交渉からみた前近代の世界像』同時代ライブラリー 岩波書店 1992。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	松 浦 玲
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>1999年度のNHK大河ドラマは「忠臣蔵」と決まった。歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」ではなく実録（元禄忠臣蔵）の系統でドラマを作るのであろう。講義では「仮名手本忠臣蔵」と実録との違いの様々な、実話とは違うを「仮名手本忠臣蔵」が創られ愛好された思想的理由に切りこむところから日本思想史全体に話を広げるという手法を試してみたい。</p>		<b>[講義計画]</b> <p>歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の通しが視聴覚の資料として揃っているの、それと映画の「元禄忠臣蔵」との違いを見比べることに時間を割く。映像で問題点が呑みこめたところで、それが思想的にどのような意味を持つのかを日本思想史の概説を交えながら説明する。</p>		
<b>[成績評価の方法]</b> <p>受講者が多ければ試験、少なければレポート。</p>		<b>[参考文献]</b> <p>講義の進行に従い必要なものを挙げていく。</p>		
<b>[教科書]</b> <p>使わない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア思想史		通 期	4 単位	リン 林                      ヨウサク 宏 作
<b>[講義概要・学習目標]</b> <p>四千年にも及ぶ中国思想史を一年間二十数回の講義では到底述べ尽すことはできない。本年度は上世期、つまり春秋時代の末から後漢の終りまでの約七百数十年間の思想の変遷について概説する。この上世期は前の漢の景帝以前と武帝以後との二つの時代に分けて考えることができる。前半期は一般に「諸子百家の時代」と呼ぶ、後半期は「経学の時代」と呼ぶ。それぞれの特徴および代表的な思想家について述べてみたい。</p>		<b>[講義計画]</b> <p>① 中国思想史の意義ならびにその分期について          ② 中国思想の一般的性格          ③ 諸子百家の時代          ④ 経学の時代</p>		
<b>[成績評価の方法]</b> <p>レポートの提出と試験の成績</p>		<b>[参考文献]</b> <p>狩野直喜(著)「中国哲学史」(岩波書店)          武内義雄(著)「中国思想史」(岩波書店)          小島祐馬(著)「中国思想史」(創文社)          森三樹三郎(著)「中国思想史」(第三文明社)</p>		
<b>[教科書]</b>				